

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	1時間目（9:00－10:30）		
科目名	生物学	講義曜日	火	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	立谷麻衣	実務経験			
講義目標	一般目標				
	生体の構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得する。				
	到達目標				
	細胞の構造と機能、細胞代謝、遺伝子と遺伝、化学反応と化合物、生命を構成する基本物質などについて説明できる。				
回数	講義内容				
1	生命とは何か、生命の誕生と変遷				
2	生物は細胞からできている①				
3	生物は細胞からできている②				
4	細胞の一生と個体の成り立ち				
5	生殖によって子孫をつくる				
6	試験（生物学・前半）、解説				
7	遺伝と遺伝子				
8	発生して体をつくる、刺激の受容と反応				
9	内部環境を保つ仕組み				
10	動物の行動と進化				
11	試験（生物学・後半）、解説				
12	人体の構成要素①				
13	人体の構成要素②、人体における化学反応				
14	糖質、脂質、タンパク質の代謝、タンパク質の合成				
15	人体における恒常性の維持				
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法	
<p>教科書に沿ってスライドで授業を進めます。</p> <p>配布するプリントに穴埋めをしてください。</p> <p>マーカーペンなどで色分けすると、復習の際に見やすいかと思います。</p>	
講義で使用する機器・教材	
<p>①パソコン、プロジェクター</p> <p>②配布プリント</p>	
履修上の注意事項	
<p>生物学の試験は前半と後半の2回に分けて行います。</p> <p>授業の進行具合で試験日程が変更になる場合があります。</p>	
成績評価方法	
<p>①出席：2/3回以上出席すること。</p> <p>②成績：試験が6割、出席点（授業態度を含む）が4割で計算し、前半と後半の平均を最終評定とします。</p>	
教科書・参考書	
<p>【教科書】 歯科衛生学シリーズ 生物学</p>	
予習復習のアドバイス	
<p>教科書と配布プリントをもとに学習を進めてください。</p>	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3, 4 時間目		
科目名	化学	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	高田雄京	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科医療の現場で患者さんの健康づくりに一助する歯科衛生士として、日常の現象を化学的に捉えて理解する習慣を身に付け、履修しなければならない専門科目や歯科医療で取り扱う様々な歯科材料及び試薬等を基本から理解するために必要な化学の基礎知識を習得することを目指す。				
	到達目標				
専門科目や歯科医療で取り扱う様々な歯科材料及び試薬等を基本から理解するため、必要な化学的な基礎知識（下記に示した各回の講義内容）を習得する。					
回数	講義内容				
1	物質の分類と物質の構造、原子、分子、化学結合				
2	気体の性質と法則、医療及び生活への気体の応用				
3	溶液の濃度(比例式と濃度の計算)				
4	希薄溶液の性質とコロイド溶液				
5	酸とアルカリの性質、水素イオン濃度				
6	酸化と還元、金属の電気化学				
7	有機化合物の種類、有機化合物の構造と性質				
8	高分子化合物の重合反応、高分子化合物の性質				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 対面での講義を中心とする。	
講義で使用する機器・教材 講義ノートを準備すること。また、講義資料をまとめるバインダーなどが必要。	
履修上の注意事項 講義ごとに資料を配布するので、必ずファイルして保存すること。また講義内容で重要と思われる部分をメモつけること。演習を行うので復習すること。	
成績評価方法 筆記試験を行い、60点以上を合格とする。	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 化学	
予習復習のアドバイス 内容の理解を深めるため、復習を中心に行い、演習（計算問題など）も復習するように心がける。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	3年
学科	歯科衛生科	講義時間	1, 2時間目		
科目名	心理学	講義曜日	月曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	宇佐美貴章	実務経験			
講義目標	一般目標 ひとの心理（こころとあたま）のはたらきについて学ぶ。				
	到達目標				
	発達症をもつひとについて理解を深める。 認知行動療法的な考えかたについて理解を深める。				
回数	講義内容				
1	主語を「私」にしてコミュニケーションをとる				
2	メリットもデメリットも伝える				
3	自身のストレスへの対処法を明確にする				
4	自分で決めることを尊重する				
5	デコボコがあるひととのやりとりの配慮（自閉スペクトラム症）				
6	デコボコがあるひととのやりとりの配慮（注意欠如多動症）				
7	考えかた・行動を変えて欲しいと思ったときの作戦の立てかた（認知行動療法に基づいた関わり） 1				
8	考えかた・行動を変えて欲しいと思ったときの作戦の立てかた（認知行動療法に基づいた関わり） 2				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法	
グループワークなどの活動 映像の視聴や教科書や資料の閲覧 パワーポイント資料での解説	
講義で使用する機器・教材	
教科書 配布資料 映像資料	
履修上の注意事項	
講義内容は変更の可能性があります。	
成績評価方法	
試験・ワークへの参加・ワークシート	
教科書・参考書	
【教科書】 「大切な人が死ぬとき」 水谷緑 竹書房	
予習復習のアドバイス	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科 目 名	生命倫理学	講義曜日	月曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	徳田幸雄	実務経験			
講義目標	一般目標				
	人間観（人間とは何か？）、人生観（何のために生きるか？）、死生観（死んだらどうなるのか？）といった哲学・宗教的な問いを考察したうえで、現代社会が直面している倫理的課題に対して自身の立場や見解を明確にする。				
	到達目標				
		医療従事者に求められる倫理観を身につけるとともに、一人の人間として自らを見つめ直す機会とする。			
回数	講義内容				
1	プラトンにおける「死の道」（古代ギリシャにおける死生観）				
2	プラトンにおける「愛の道」（古代ギリシャにおける恋愛観）				
3	ユダヤ教における倫理観				
4	キリスト教における倫理観				
5	イスラームにおける倫理観				
6	仏教における倫理観				
7	優生思想				
8	人工妊娠中絶問題（生命か選択か）				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					

18	
19	
20	
講義方法	
<p>プロジェクターでマインド・マップを投影しながら講義をすすめる。 なお、理解を深めるために、可能な限り視聴覚資料を活用する。</p>	
講義で使用する機器・教材	
<p>配布資料（マインド・マップ、チェックテスト）</p>	
履修上の注意事項	
<p>死語を慎むなど基本的なマナーを守ること。</p>	
成績評価方法	
<p>講義のなかで実施するチェックテストおよび定期試験</p>	
教科書・参考書	
<p>特になし</p>	
予習復習のアドバイス	
<p>予習：宗教や倫理に関連する時事問題に関心を持つこと。 復習：チェックテストを見直すこと。</p>	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	2時間目（10:45-12:15）,6/26木は4時間目		
科目名	コミュニケーション学 （カウンセリング含む）	講義曜日	金曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	加藤雅子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	①コミュニケーションの基本である挨拶、返事が気持ちよく出来る。				
	②相手と双方向のコミュニケーションを取り、相互理解が出来る。				
	③相手を尊重し、寄り添うことが出来るケア・コミュニケーションスキルを習得する。				
講義目標	到達目標				
	①相手を尊重し、受容・共感することで、良好な人間関係を構築することが出来る。				
	②相手に好感・安心感を与える言動が意識的に取れることが出来る。				
	③自分自身のコミュニケーションの取り方に責任を持ち、客観的に振り返ることが出来る。				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション・コミュニケーションの重要性				
2	医療・保健におけるコミュニケーションを考える視点とその役割				
3	コミュニケーションの目的とプロセス、ホスピタリティとケア・コミュニケーション（演習）				
4	好感・安心感を高めるコミュニケーション① 実践練習				
5	好感・安心感を高めるコミュニケーション② ワーク				
6	好感・安心感を高めるコミュニケーション③ 敬語と言葉遣い				
7	好感・安心感を高める声掛け 患者対応実践				
8	受容と共感のコミュニケーション① アサーティブ・コミュニケーション				
9	受容と共感のコミュニケーション② 交流分析・ケーススタディー				
10	苦情とクレームの対応スキル				
11	歯科スタッフの説明スキル～分かりやすく説明する～				
12	配慮ある支援が必要な被援助者とのコミュニケーション				
13	チームワークコミュニケーション～「報告・連絡・相談」～				
14	より良いチームワークのためのマナーとコミュニケーション				
15	総復習、筆記試験				

16	
17	
18	
19	
20	
講義方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークや実践練習を多く取り入れたアクティブラーニングで気付きや学びを得られる講義を展開する。 	
講義で使用する機器・教材	
<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード、プロジェクター（HDMI端子） 	
履修上の注意事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・講義には主体性を持って参加し、よく聴き、よく考え、よく発言すること。傍観者にならない。 ・相手を尊重しながら、双方向のコミュニケーションを取り、互いの考えや意見を積極的に交換すること。 ・挨拶、返事はしっかりと行い、皆が気持ちよく授業に参加できる環境を整えること。 	
成績評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 80%、授業態度 20% 	
教科書・参考書	
<p>【教科書】 歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて補足資料を配布する。 	
予習復習のアドバイス	
<ul style="list-style-type: none"> ・次回講義のテキスト該当ページ（授業内で都度案内）をよく読み、理解しておくこと。分からないことは、講義中に必ず質問し、明確にすること。理解度チェック等の問題は、その単元が終わるごとに、しっかりと行い、復習すること。普段からマナー（特に挨拶、所作、返事）やコミュニケーションの取り方を意識して過ごすこと。 	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	人間発達学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野 純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	人間の発達を理解することが、なぜ必要なのか、その必要性を認識するとともに歯科衛生士の役割を、認識し、適切に対応するための知識の整理・蓄積をしておく。				
	到達目標				
	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児の各時期における発達課題や発達過程を理解し、説明できる。 2 小児の各機能の発達過程を理解し、説明できる。 3 発達の評価を理解することが出来る。 				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション 人の発達とは 生涯発達の理論				
2	発達の原則、生得要因と環境要因の相違について				
3	運動機能（粗大運動）の発達				
4	認知機能（感覚－知覚－認知、知能）の発達				
5	社会性の発達				
6	運動機能（微細運動）の発達				
7	言語の発達				
8	摂食嚥下の発達				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 座学講義形式、資料をデータ配布します。	
講義で使用する機器・教材 配布資料、プロジェクター、iP a d	
履修上の注意事項 資料は基本的にはデータでお渡しします。 教科書を必ず持参ください。	
成績評価方法 定期試験ならびに課題点、出席、授業態度で総合的に評価します。	
教科書・参考書 Cross Linkbasic リハビリテーションテキスト 人間発達学 メディカルビュー社	
予習復習のアドバイス	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	英語	講義曜日	水曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	高橋光子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	英文の基本的な構成要素と英文の構造について理解を深め、英文法の知識の習得。				
	到達目標				
	英語をコミュニケーションのツールとして使えることを目指す。				
回数	講義内容				
1	be動詞、一般動詞				
2	過去形（be動詞、一般動詞）				
3	進行形（現在形、過去形）				
4	未来形－be going to. Will				
5	名詞（可算・不可算）、冠詞				
6	不定詞、動名詞				
7	接続詞				
8	現在完了形				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法	
テキストを用いて、プリント等による問題をすることで理解を確認しながら進める。	
講義で使用する機器・教材	
大学英語『グラマー・プラス』	
履修上の注意事項	
個々の英語をブラッシュアップするために、授業に辞書を用いることを必須とする。	
成績評価方法	
筆記試験及び、授業に対する姿勢等による総合評価とする。	
教科書・参考書	
【教科書】 Grammar Plus Second edition	
予習復習のアドバイス	
授業の前に、内容確認し分からないところを知る。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	4時間目		
科目名	歯科英語	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	石幡浩志	実務経験			
講義目標	一般目標				
	国内外を含め、一般の歯科医院において日常的に利用される歯科英語を理解し、臨床において実際に使用できるようにする。				
	到達目標				
	①教科書をベースに、歯科英単語および用語の意味を理解し、暗記できる。 ②英語を使って来院しようとする、あるいは来院した患者さんと基本的なコミュニケーションがとれる。				
回数	講義内容				
1	Unit1 電話の予約－Appointment－				
2	Unit2 受付にて：来院時と既往症－At the Reception Desk(1)－				
3	Unit3 治療前の指示－Before the Treatment(1)－				
4	Unit4 受付にて：治療後－At the Reception Desk(2)－				
5	Unit5 治療の経過－Before the Treatment(2)－				
6	Unit6 レントゲン撮影－Taking an X-ray－				
7	Unit7 歯の手入れ－Dental Care－				
8	Unit8 正しい歯磨き－How to Brush Your Teeth－				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					

18	
19	
20	
講義方法 教科書に沿って進めながら、文法や単語の使用方法やニュアンスを学びます。 歯科医院において広く使用されている英単語も多いので、日常臨床と合わせて学びます。 患者とのコミュニケーションに有用なセンテンスを学びます。	
講義で使用する機器・教材 教科書、プリント、ビデオ	
履修上の注意事項 暗記が必要な単語が沢山あります。用語と文章の予習・復習をこまめに行いましょう。	
成績評価方法 授業での履修態度と課題、および試験の成績によって評価を行います。	
教科書・参考書 【教科書】 歯科英語の練習帳 – English for Dental Hygienists – 萌文書林	
予習復習のアドバイス 教科書の内容を音声ファイルで視聴できます。授業開始までに、教科書の冒頭の説明に従って各Unitの音声ファイルをダウンロードし、視聴してください。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	4時間目		
科目名	歯科英語	講義曜日	火曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	石幡浩志	実務経験			
講義目標	一般目標				
	日常の臨床で使用される歯科英語を習得し、実践的に利用できるようにする。				
	到達目標				
	①歯科医院で用いる英語専門用語およびセンテンスの意味を理解し、暗記できる。 ②英語を使って、患者さんに歯科治療の説明ができる。 ③英語圏(米国)において、実際に歯科衛生士が用いる歯科用語とセンテンスを学ぶ。				
回数	講義内容				
1	Unit9 喫煙と食生活－Smoking and Eating Habits－				
2	Unit10 歯周病対策－How to Prevent Gum Deseas－				
3	Unit11 乳幼児のむし歯予防－Dental Health of Infants－				
4	Unit12 歯の健康のための活動－Dental Health Activities－				
5	Unit13 デイケアセンターにて－At an Daycare Center－				
6	Extra Unit A 歯科用語－Dental Terminology－				
7	Extra Unit B1 歯衛生士の一日(1)－Mission of Dental Hygienist 1－				
8	Extra Unit B1 歯衛生士の一日(2)－Mission of Dental Hygienist 2－				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					

18	
19	
20	
講義方法	
<p>教科書に沿って進めながら、文法や単語の使用方法やニュアンスを学びます。 歯科医院において広く使用されている英単語も多いので、日常臨床と合わせて学びます。 患者とのコミュニケーションに有用なセンテンスを学びます。</p>	
講義で使用する機器・教材	
教科書、プリント、ビデオ	
履修上の注意事項	
<p>教科書に沿って進めながら、文法や単語の使用方法やニュアンスを学びます。 歯科医院において広く使用されている英単語も多いので、日常臨床と合わせて学びます。 患者とのコミュニケーションに有用なセンテンスを学びます。</p>	
成績評価方法	
教科書、プリント、ビデオ	
教科書・参考書	
【教科書】 歯科英語の練習帳 – English for Dental Hygienists – 萌文書林	
予習復習のアドバイス	
教科書の内容を音声ファイルで視聴できます。授業開始までに、教科書の冒頭の説明に従って各Unitの音声ファイルをダウンロードし、視聴してください。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	3, 4時間目(時間割参照)		
科目名	解剖学	講義曜日	金曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子	実務経験	笠原：医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	人体を構成する器官を形態、構造、機能及び器官相互の位置関係について学び、説明できる。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器官の系統的な分類を理解する。 ・ 人体の外形と構成を理解する。 ・ 器官の形態、構造、機能機関相互の位置関係を理解する。 				
回数	講義内容				
1	総論：解剖学の種類、人体の構成、用語 / 1. 骨格系（1）：構造、機能				
2	1. 骨格系（2）：体幹骨（胸郭、呼吸） / 上肢骨（鎖骨と頭蓋骨の関係等）				
3	1. 骨格系（3）：下肢骨（寛骨と腸骨、恥骨、坐骨の関係、骨盤の性差）				
4	2. 筋と運動（1）：構造と機能（筋の形状と分類、頭部、頸部、背部の筋）				
5	2. 筋と運動（2）：胸部、腹部、上肢、下肢				
6	3. 消化・吸収（1）：消化管の構造（口腔～食道、嚥下）				
7	3. 消化・吸収（2）：胃～大腸、肛門（肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜後器官）				
8	4. 循環（1）：血管系の概要（構造、血球、組織）・心臓・動脈				
9	4. 循環(2)：静脈系・リンパ系 / 胎児の循環				
10	5. 神経系（1）：概要・構成 / 中枢神経系				
11	5. 神経系（2）：末梢神経系				
12	6. 呼吸器系：上気道・下気道～肺				
13	7. 感覚：一般的性質、皮膚・粘膜・眼・耳				
14	8. 泌尿器系 /9. 生殖器系				
15	10. 内分泌系				
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。	
講義で使用する機器・教材 プロジェクター（P C連動）、配布プリント、骨格標本模型	
履修上の注意事項 解剖学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。授業中の私語、携帯電話の使用、途中退席は厳禁とする。	
成績評価方法 試験評価 80% 授業態度 20%	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学 【参考書】 プロメテウス解剖学アトラス（医学書院） / 人体の構造と機能（全10巻縮刷版）（日本医事新報社）	
予習復習のアドバイス 教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	組織・発生学	講義曜日	月曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	笠原：医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	人体を構成する最小の基本単位である細胞の構造と、その集団が一定の配列や形態をとってきた組織の構造と機能について学び、説明できる。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞と細胞内小器官の構造と機能を理解する。 ・組織の種類、構造と機能を理解する。 ・人体の正常発生過程と先天異常を理解する。 				
回数	講義内容				
1	歯の組織と名称 ※「口腔組織学」の内容				
2	細胞：細胞の構造、細胞の一生				
3	組織①種類と構成、上皮組織、支持組織、結合組織				
4	組織②骨組織				
5	組織③筋組織				
6	組織④神経組織				
7	発生①染色体と減数分裂,精子と卵子, 受精と着床				
8	発生②胚葉の形成/胎児の成長と発育				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。	
講義で使用する機器・教材 プロジェクター（P C連動）、配布プリント、骨格標本模型	
履修上の注意事項 解剖学・組織学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。授業に参加すること。 授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。	
成績評価方法 試験評価 80% 授業態度、提出物 20%	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学	
予習復習のアドバイス 教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3,4時間目 (6/16は3時間目のみ)		
科目名	生理学	講義曜日	月曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	土谷昌広	実務経験			
講義目標	一般目標				
	本科目では様々な生理機能と関連して、歯科衛生士として歯科医学を理解する上で必要な知識を身につけるだけでなく、顎口腔領域の専門家として、患者さんに対して説明できるレベルまで理解を深めることを目的とする。				
	到達目標				
		脳をはじめとした神経系の機能について説明できる。筋による運動機能について理解する。消化、吸収、排泄の機序について理解する。腎臓の働きと体液の恒常性について理解する。			
回数	講義内容				
1	生理学とは？機能と形態・細胞と組織				
2	遺伝子・骨格系と筋の働き、筋活動と電位□				
3	筋反射と調節、疲労				
4	胃腸の機能・消化、排便				
5	栄養と味覚、糖代謝				
6	循環：体液・血液、心臓・血圧・脈拍□				
7	血液成分・機能、血液凝固と溶解□				
8	神経系：中枢、高次機能□				
9	感覚：体性感覚、特殊感覚：皮膚				
10	特殊感覚：色覚・聴覚、感覚異常				
11	呼吸：呼吸器・内呼吸と調節、体内pHと恒常性□				
12	泌尿器・排尿、体液と体温の恒常性				
13	内分泌：ホルモンの働き、内分泌：性ホルモンについて□				
14	生殖器と性周期、更年期障害				
15	確認テスト、解説□				
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 授業計画に従って、教科書を中心に進めます。また、教科書の内容に関連した事項について、Powerpoint等を使用してプレゼンテーションします。講義日程の最後にテストを行い、理解度を確認します。	
講義で使用する機器・教材 教科書とスライドによる説明 プリントの配布	
履修上の注意事項 人体の機能の科目で履修したことについて復習をしておくこと。 復習として配布プリントやノートを整理し、教科書の記載内容を確認すること。	
成績評価方法 平常点（30％）と定期試験成績（70％）	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学	
予習復習のアドバイス 人体の機能の科目で履修したことについて復習をしておくこと。 復習として配布プリントやノートを整理し、教科書の記載内容を確認すること。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯の解剖学	講義曜日	金曜日	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子、三上眞、丹野雅仁	実務経験	笠原：医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 三上：大学病院に歯科技工士として42年間勤務 丹野：歯科医院、大学病院に歯科技工士として通算5年間勤務、歯科技工士養成校で教員として36年間勤務		
講義目標	一般目標				
	永久歯および乳歯の形態、表面構造、機能と歯種の鑑別について学び、説明できることを目的とする。				
	到達目標				
	①歯の名称、表示法、用語を理解し説明できる。 ②永久歯と乳歯の形態、表面構造と機能を理解し説明できる。 ③歯種の鑑別を理解し、説明できる。④正常な歯列と咬合を理解し、説明できる。				
回数	講義内容				
1	歯の概論①				
2	歯の概論②				
3	永久歯①（特徴、前歯①）				
4	永久歯②（前歯②）				
5	永久歯③（小白歯①）				
6	永久歯④（小白歯②、大白歯①）				
7	歯型彫刻①（上顎中切歯①）（三上眞、丹野雅仁）				
8	歯型彫刻②（上顎中切歯②）（三上眞、丹野雅仁）				
9	永久歯⑤（大白歯②）				
10	乳歯①（乳前歯）				
11	乳歯②（乳臼歯）				
12	異常歯				
13	歯の配列と咬合関係				
14	歯型彫刻③（上顎第一大臼歯①）（三上眞、丹野雅仁）				

15	歯型彫刻④（上顎第一大臼歯②）	（三上眞、丹野雅仁）
16	歯型彫刻⑤（上顎第一大臼歯③）	（三上眞、丹野雅仁）
17		
18		
19		
20		
講義方法		
教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、顎模型を用いて講義を行う。 石膏の棒を削り、上顎中切歯および上顎第一大臼歯を作成する。		
講義で使用する機器・教材		
プロジェクター（PC連動）、配布プリント、歯牙模型 歯型彫刻時に使うものは、追って連絡する。		
履修上の注意事項		
歯の形態を知ることは、歯の清掃指導、歯頸部のスケーリング等に関して、非常に重要である。 歯の解剖学の学習量は膨大であるため、予習復習を確実にを行い、授業に参加すること。		
成績評価方法		
試験点数を70%。平常点10%。 歯型彫刻実習の配点は、20%とする。（出席点と製作物の提出点を基礎点とする）		
教科書・参考書		
【教科書】 歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 【参考書】 最新歯型彫刻 理論と実際 第2版（医歯薬出版） / 基礎から学ぶ歯の解剖（医歯薬出版）		
予習復習のアドバイス		
覚えるべき専門用語が多いので、必ず事前に教科書を熟読し、授業後にも授業内容をしっかりと復習すること。		

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	口腔解剖学	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	2
講師名	笠原江利子	実務経験	医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔とは消化管の始まりの部分で、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割がある。それらの機能を営むために、歯、歯周歯、歯周組織、舌、唾液腺を備えている。本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。口腔解剖学の概要を学び、口腔の解剖について理解し、口腔を解剖学的側面から説明できる。				
	到達目標				
	歯・口腔とその周囲組織の構造・機能に関する理解を深め、説明できる様にする。				
回数	講義内容				
1	口腔の構成① 口唇、頬、歯肉、口蓋				
2	口腔の構成② 舌、唾液腺、咽頭 / 頭蓋を構成する骨①				
3	頭蓋を構成する骨②				
4	頭蓋を構成する骨③ 頭頸部の筋と作用①				
5	頭頸部の筋と作用②				
6	顎関節				
7	口腔付近に分布する脈管系① 動脈系				
8	口腔付近に分布する脈管系② 静脈・リンパ系				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。	
講義で使用する機器・教材 プロジェクター（P C連動）、配布プリント、骨格標本模型	
履修上の注意事項 口腔解剖学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。 授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。 ※口腔組織学の7、8回目に行う講義も、口腔解剖学のテスト範囲とする。	
成績評価方法 試験評価80% 授業態度、提出物20%	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 【参考書】 プロメテウス解剖学アトラス 口腔・頭頸部（医学書院）	
予習復習のアドバイス 教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	口腔組織学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	笠原：医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔とは、消化管の始まりの部分で、食物摂取・咀嚼・嚥下などの一連の役割がある。それらの機能を営むために、歯・歯周組織・舌・唾液腺を備えている。本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。口腔組織発生学の概要を学び、歯と歯周組織の発生について理解し、それを説明できる。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯と歯周組織の発生過程を理解する。 ・ 歯と歯周組織の構造と機能を説明する。 				
回数	講義内容				
1	顔面と口腔の発生①				
2	顔面と口腔の発生②				
3	歯と歯周組織の発生				
4	歯および歯周組織の構造と機能① エナメル質				
5	歯および歯周組織の構造と機能② 象牙質・セメント質				
6	歯および歯周組織の構造と機能③ 歯槽骨・歯肉・歯根膜				
7	口腔付近に分布する神経系① 脳神経（1）				
8	口腔付近に分布する神経系② 脳神経（2）、自律神経系				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。 ※⑦⑧コマ目の講義は、口腔解剖学の範囲の講義を行う。その都度、説明する。	
講義で使用する機器・教材 プロジェクター（P C連動）、配布プリント、骨格標本模型	
履修上の注意事項 口腔組織学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。 授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。	
成績評価方法 試験評価 80% 授業態度 20%	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 【参考書】 カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで 井上貴央監訳（西村書店）	
予習復習のアドバイス 教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	3,4時間目		
科目名	口腔生理学	講義曜日	月曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	土谷昌広	実務経験			
講義目標	一般目標				
	本科目では味覚をはじめとした口腔内の感覚、摂食運動と関連して筋収縮や運動制御、摂食嚥下の後に生体で行われる消化・吸収や排泄、さらに口腔が重要な役割を果たしている発声について学ぶ。				
	到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・味覚をはじめとした口腔内の感覚について説明できる。 ・筋による運動機能と摂食に関わる顎運動について理解する。 ・食物の消化、吸収、排泄の機序について理解する。 ・発声や構音のしくみについて理解する。 					
回数	講義内容				
1	歯の構造と機能・歯根膜感覚				
2	舌、粘膜などの機能・味覚・嗅覚				
3	咬合・咀嚼				
4	吸啜・摂食				
5	摂食障害と拒食症・嚥下・誤嚥				
6	発声・嘔吐・構音障害				
7	唾液：分泌と調節・口腔乾燥症				
8	確認テスト・復習				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 授業計画に従って、教科書を中心に進めます。また、教科書の内容に関連した事項について、Powerpoint等を使用してプレゼンテーションします。講義日程の最後にテストを行い、理解度を確認します。	
講義で使用する機器・教材 教科書とスライドによる説明 プリントの配布	
履修上の注意事項 人体の機能の科目で履修したことについて復習をしておくこと。 復習として配布プリントやノートを整理し、教科書の記載内容を確認すること。	
成績評価方法 平常点（30%）と定期試験成績（70%）。	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	
予習復習のアドバイス 人体の機能の科目で履修したことについて復習をしておくこと。 復習として配布プリントやノートを整理し、教科書の記載内容を確認すること。	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	生化学・口腔生化学	講義曜日	火曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	立谷麻衣	実務経験			
講義目標	一般目標				
	人体（口腔）における生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、物質の代謝と機能に関する基本的知識を習得する。				
	到達目標				
	生体の構成要素、生体における化学反応、エネルギーの代謝、物質の代謝、酵素の種類と作用、生体における恒常性の維持について説明できる。 歯と歯周組織、硬組織、唾液、デンタルプラークの生化学などについて説明できる。				
回数	講義内容				
1	試験（生化学）、解説				
2	歯と歯周組織の生化学				
3	硬組織の生化学				
4	唾液の生化学				
5	プラークの生化学①				
6	プラークの生化学②				
7	プラークの生化学③				
8	試験（口腔生化学）、解説				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

16	
17	
18	
19	
20	
講義方法 教科書に沿ってスライドで授業を進めます。 配布するプリントに穴埋めをしてください。 マーカーペンなどで色分けすると、復習の際に見やすいかと思います。	
講義で使用する機器・教材 ①パソコン、プロジェクター ②配布プリント	
履修上の注意事項 生化学の試験と、口腔生化学の試験をそれぞれ行います。 授業の進行具合で試験日時が変更になることがあります。	
成績評価方法 ①出席：2/3回以上出席すること。 ②成績：試験が6割、出席点（授業態度を含む）が4割で計算し、生化学と口腔生化学の平均を最終評定とします。	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学	
予習復習のアドバイス 教科書と配布プリントをもとに学習を進めてください。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	3年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	基礎歯科医学特論	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	土谷昌広、佐々木優、根本英二、立谷麻衣、大島絵恋、村上任尚、多田浩之、嶋田雄介、石幡浩志、齋藤悠、田中恭恵、佐々木詩織、猪狩和子、中村卓史	実務経験			
講義目標	一般目標				
	必要な基本的歯科医学の知識と歯科の主要な疾患を理解する。 歯科衛生士として、臨床につなげるための知識や技術の習得を確実にする。				
	到達目標				
	これまでに学んだ知識の理解を深め、歯科衛生士として患者様を全体的に診る資質を身につける。				
回数	講義内容				
1	生理学・口腔生理学 総論 (土谷昌広)				
2	生理学・口腔生理学 各論 (土谷昌広)				
3	病理・口腔病理 総論 (佐々木優)				
4	病理・口腔病理 総論 (佐々木優)				
5	フレイル① (土谷昌広)				
6	フレイル② (土谷昌広)				
7	歯科麻酔学 総論 (佐々木詩織)				
8	歯科麻酔学 各論 (佐々木詩織)				
9	生化学・口腔生理学 総論 (立谷麻衣)				
10	生化学・口腔生理学 各論 (立谷麻衣)				
11	歯科薬理学 総論 (中村卓史)				
12	歯科薬理学 各論 (中村卓史)				
13	衛生統計学 総論 (村上任尚)				
14	衛生統計学 各論 (村上任尚)				
15	障がい者歯科 総論 (猪狩和子)				
16	障がい者歯科 各論 (猪狩和子)				

17	歯内療法学 総論	(根本英二)
18	歯内療法学 各論	(根本英二)
19	歯周療法学 総論	(石幡浩志)
20	歯周療法学 各論	(石幡浩志)
21	歯科放射線学 総論	(嶋田雄介)
22	歯科放射線学 各論	(嶋田雄介)
23	高齢者歯科学 総論	(田中恭恵)
24	高齢者歯科学 各論	(田中恭恵)
25	口腔外科学 総論	(齋藤悠)
26	口腔外科学 各論	(齋藤悠)
27	歯科矯正学 総論	(大島絵恋)
28	歯科矯正学 各論	(大島絵恋)
29	微生物学 総論	(多田浩之)
30	微生物学 各論	(多田浩之)

講義方法

国試問題などについて、まとめと解説を行う。

講義で使用する機器・教材

パワーポイントやDVDなどを使用します。

履修上の注意事項

質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。

成績評価方法

履修した科目をまとめて試験を行う。7月からの国試模試（主要三科以外の点数）も加味し、評価を行う。

教科書・参考書

【教科書】これまでに使用した、各科目の教科書、国試対策本。

予習復習のアドバイス

それぞれが国試において頻出の部分であるため、受講後には必ずまとめて復習を行うこと。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	通年	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1, 2時間目		
科目名	微生物学・口腔微生物学	講義曜日	金曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	多田 浩之	実務経験			
講義目標	一般目標				
	微生物学では病原微生物の生態、微生物-宿主関係ならびに感染症を理解し、免疫学では病原微生物に対する免疫応答を理解する。口腔微生物学ではう蝕と歯周病を中心に口腔感染症に関わる病原細菌の性状、病像と口腔免疫の特異性について理解する。				
	到達目標				
	歯科衛生士国家試験受験に必要な微生物学の基礎的な知識を身につけ、実際の臨床で遭遇する感染症ならびに免疫応答について説明できる。				
回数	講義内容				
1	微生物学の概要：微生物の世界、病原微生物学の歴史 感染：感染の成立、感染の種類				
2	微生物学総論：細菌 微生物学総論：ウイルス、真菌				
3	微生物の培養、観察と検査：培養法、観察法、検査法 化学療法：化学療法薬、抗菌薬、抗菌スペクトル				
4	化学療法：薬物耐性、副作用、抗ウイルス薬、抗真菌薬、抗原虫薬 消毒と滅菌：消毒法、滅菌法、標準予防策（スタンダード・プレコーション）				
5	口腔環境：唾液、ペリクル、歯肉溝浸出液 口腔環境：口腔常在微生物				
6	プラーク：プラークの形成と成熟、バイオフィルム う蝕：発生機序、う蝕原性細菌、う蝕予防法				
7	歯周病：分類、歯周病原細菌、歯周組織の破壊、歯周病予防法 義歯性カンジダ症、誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎、インプラント周囲炎				
8	【宿題の解説】 微生物学 総論 病原細菌：グラム陽性球菌				
9	病原細菌：グラム陽性桿菌、グラム陰性菌 病原細菌：スピロヘータ、マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア				
10	病原ウイルス：DNA/RNAウイルス、レトロウイルス、肝炎ウイルス その他の病原微生物：口腔カンジダ症、原虫感染症、プリオン				
11	【宿題の解説】 微生物学 各論 免疫：免疫学概論				
12	免疫：自然免疫 免疫：抗原提示1				

13	免疫：抗原提示2 免疫：獲得免疫
14	免疫：ワクチン 免疫：粘膜免疫、アレルギー
15	免疫：自己免疫疾患、免疫寛容、免疫不全、移植免疫 【宿題の解説】 免疫学
講義方法 講義は教科書を中心に行い、適宜配布資料やスライドを用いて理解を深める。	
講義で使用する機器・教材 PCおよびプロジェクター	
履修上の注意事項 微生物学は講義内容が膨大である。微生物学と免疫学は高等学校「生物」が基盤となるため、高校において生物を選択していない学生はあらかじめ勉強を行っておくことが望ましい。	
成績評価方法 期末試験により評価する。	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 微生物学 第2版	
予習復習のアドバイス 予習について：次回の講義範囲について教科書を素読（繰り返し音読すること）を行うことで、講義の理解が深まる。 復習について：微生物学は講義範囲が膨大なため、講義ノートと教科書をまとめた「まとめノート」の作成を推奨する。 「まとめノート」は歯科衛生士国家試験勉強の基盤となるため、毎回欠かさずに予習と復習を継続することを勧める。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	3, 4時間目(予定表参照)		
科目名	薬理学・歯科薬理学	講義曜日	火曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	中村卓史	実務経験			
講義目標	一般目標				
	医薬品の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解し、歯科衛生士が歯科保健・歯科医療に携わるチームの一員として、歯科医療を安全に行うために必要な基本的知識を修得する。				
	到達目標				
	1. 薬理学の意義、薬理作用と薬物の作用機序、薬物の体内動態について理解する。 2. 薬物の副作用、有害事象について理解する。 3. 疾患発症と治療薬の薬理作用について理解し、安全に歯科医療を行うための注意点が説明できる。				
回数	講義内容				
1	薬理学総論：学習方法、薬物の定義、薬物療法、作用形式ならびに薬物動態について				
2	薬理学総論：薬物療法、作用形式、薬物動態ならびに薬物の副作用・有害作用について				
3	薬理学総論：医薬品の分類と取り扱い、薬物の分類・表示・保管方法				
4	ビタミンとホルモン：脂溶性水溶性ビタミンと欠乏症、内分泌性疾患のホルモン薬治療				
5	末梢神経系に作用する薬物				
6	中枢神経系に作用する薬物				
7	循環器系に作用する薬物・腎臓に作用する薬物				
8	腎臓に作用する薬物・呼吸器系に作用する薬物・消化器系に作用する薬物				
9	血液に作用する薬物・免疫と薬・悪性腫瘍と薬				
10	代謝性疾患治療薬・炎症と薬				
11	炎症と薬・痛みと薬				
12	局所麻酔薬・抗感染症薬				
13	抗感染症薬消毒に使用する薬				
14	消毒に使用する薬				
15	歯科治療で使用する薬物				
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 授業では、疾患発症機構を理解するために必要な生化学および生理学の知識を確認し、疾病治療に用いられる代表的治療薬の薬理作用機序、薬物動態、薬効に影響する因子、副作用及び薬物の取り扱い・管理について説明し、薬理学に関する知識の吸収と論理的思考力の育成を目指します。	
講義で使用する機器・教材 講義では、教科書を使用し、適宜、資料としてスライド素材を配布する。	
履修上の注意事項 講義ノートをしっかり作成し、知識を整理する。	
成績評価方法 学期末試験（100％）によって成績を評価する。	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 薬理学 第2版	
予習復習のアドバイス 事前学習として、教科書の該当ページを熟読する。 講義中に分からなかった事があれば、その日か次回の講義の最後に質問をする。 講義ノートや配付資料を見直し、知識を整理する。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	4, 5時間目		
科目名	病理・口腔病理	講義曜日	水曜日	講義回数	(90分+45分)×10回
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	佐々木優、齋藤悠	実務経験			
講義目標	一般目標 病理学は病気の原因と病気によって起きる変化について明らかにする学問である。口腔疾患における診断・治療・予防に必須な病理学的知識を習得を目標とする。				
	到達目標 病理学総論では全身の臓器に現れる同じ種類の疾患の総合的理解を、口腔病理学では歯と歯周組織、口腔粘膜、唾液腺、顎骨、顎関節に起こる病変を正しく理解することを目標とする。				
回数	講義内容				
1	病理学序論と病因論（齋藤悠）				
2	遺伝性疾患と先天異常（齋藤悠）				
3	循環障害（齋藤悠）				
4	代謝障害（齋藤悠）				
5	退行性病変（齋藤悠）				
6	増殖と修復（齋藤悠）				
7	炎症（齋藤悠）				
8	免疫応答異常（齋藤悠）				
9	腫瘍①（齋藤悠）				
10	腫瘍②（齋藤悠）				
11	歯の発育異常（佐々木優）				
12	歯の損傷と着色・付着物（佐々木優）				
13	う蝕・象牙質歯髄複合体の病態（佐々木優）				
14	歯周組織の病態（佐々木優）				
15	口腔粘膜の病変（齋藤悠）				
16	口腔領域の嚢胞と腫瘍（齋藤悠）☒				

17	口腔癌・顎骨の病変（齋藤悠）
18	唾液腺病変(齋藤悠)
19	口腔領域の奇形・口腔組織の加齢変化（佐々木優）
20	筆記試験（佐々木優）
講義方法 スライドを使って教科書の完全理解に努める。適宜、講義時間を使って、習熟度のテストを行う。	
講義で使用する機器・教材 スライド・資料（過去の国家試験問題など）	
履修上の注意事項 あらかじめ、教科書を読んで予習して、授業に臨むよう希望する。	
成績評価方法 筆記試験により評価	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 病理学・口腔病理学	
予習復習のアドバイス 教科書を何度も通読することを勧めます。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	衛生学・公衆衛生学	講義曜日	火曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	岩倉政城	実務経験			
講義目標	一般目標				
	生活環境の清潔や栄養、睡眠など人々の健康は身近な営みで守られています。しかしコロナパンデミックやウクライナでの戦争のように人々の健康は、社会的要因で容易に破壊もされ、個々人の努力だけで守れるものではありません。人類が蓄積してきた健康に関わる科学を駆使して世界と国と自治体が市民とともに健康を作り上げる営み、その方法を学びましょう。				
	到達目標				
人間集団の健康や不健康、疾病や障害を疫学として理解する力を身に付けます。その上で健康の保持や増進を社会集団を通じてどのように実現していくかを学びます。このような大きな視野を持った上で医療の一翼である歯科衛生を担いながら自分がどのように社会の健康に関わっていくかを考える機会となることを願っています。					
回数	講義内容				
1	公衆衛生(みんなのけんこう)人々の命と暮らしを守ることが公衆衛生				
2	地球と人間(環境と健康) 大自然に抱かれていた人間が今自然を破壊しつつある				
3	環境汚染と人権 水俣病 環境汚染がなぜ「公害」と読み替えられたのか				
4	4大環境汚染 水俣病・第2水俣病・イタイイタイ病・四日市ぜんそく 住民の闘いが食い止める				
5	衛生の指標(乳児死亡) 貧困の克服こそが衛生				
6	疫学 スノウ・ナイチンゲール 非科学と闘った医療者たち				
7	水と人間 水系伝染病 感染症と人権 川岸に人類は栄えた				
8	成人病を生活習慣病に読み替え病気を個人の責任に メタボリックシンドローム				
9	親と子の健康 「母子」保健からの脱却 乳幼児虐待と養育支援				
10	地域保健 保健所と地域保健センター(公衆衛生の自治体拠点)				
11	精神保健 ストレス要因 入院治療主義から地域療養へ				
12	高齢化と少子化 世代間対立の克服				
13	学校保健 自己の身体と心への気付き 人間の尊厳を育てる				
14	労働衛生 そして産業衛生 過労死の克服と労働者の権利				

15	国際衛生 世界中で進行する貧困格差とその克服
16	
17	
18	
19	
20	

講義方法

配布プリントを主体に教科書を参照しながら行う。

15回連続の講師－学生間の交換式ミニレポート用紙に授業終了前に記入提出しそれを題材に次回講義に討論を行う。

配布プリントのミニ質問欄に記入し、みんなで考える。

講義で使用する機器・教材

配布プリント 交換式ミニレポート

スライド

ときにCDプレーヤー

履修上の注意事項

常時教科書を携行

配布プリントにあるミニ質問に記入し討論し合う。

授業終了前にミニレポート記入時間を設けるので記入する。この内容は次回講義時の討論で発表し合う。

成績評価方法

期末筆記試験で50%

交換ミニレポートの内容評価で30%

出席と発表討論参加で20%

教科書・参考書

【教科書】 歯科衛生学シリーズ 保健生態学

予習復習のアドバイス

自分の健康に関する体験を振り返り、母子手帳を手元に置いて生い立ちの中で受けた公衆衛生の恩恵を振り返る。

コロナ下で感染防禦のために生活が一変し周りの人の罹患や療養体験から公衆衛生の眼を養おう。

こうした具体的な体験をミニレポートで書くよう心がけよう。

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	1, 2 時間目		
科目名	衛生統計学	講義曜日	木	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
	村上任尚	実務経験			
講義目標	一般目標				
	個人及び集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進・疾病予防・医療に関する保健統計を列挙し、そこから必要な情報を入手できる。 ・歯科に関連する指数について説明できる。 ・統計学的な知識および分析方法を身につけ、情報を正しく利用できる。 				
回数	講義内容				
1	保健情報と保健統計Ⅰ：保健情報とは・保健統計とは				
2	保健情報と保健統計Ⅱ：EBMとは				
3	保健情報の分析手順：調査・母集団と標本抽出				
4	保健統計の方法：データの特性・記述統計・検定				
5	保健情報の分析演習Ⅰ：データの表現Ⅰ				
6	保健情報の分析演習Ⅱ：データの表現Ⅱ				
7	保健情報と疫学Ⅰ：疫学総論・健康障害の発生要因				
8	保健情報と疫学Ⅱ：疫学の方法論・スクリーニング				
9	歯科疾患の指数Ⅰ：数量化と指数・う蝕の指数				
10	歯科疾患の指数Ⅱ：歯周疾患の指数				
11	歯科疾患の指数Ⅲ：口腔清掃状態の指数				
12	歯科疾患の指数Ⅳ：その他の歯科関連指数・指標				
13	情報の保護と倫理				
14	総括				
15	試験				
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 教科書を中心にスライドを使用した講義を行うとともに、コンピュータ(Excel)を用いた演習を行う。 また、随時Mentimeterなどの双方向ツールを用い、講義時間中に質疑応答を行う。	
講義で使用する機器・教材 プロジェクター、コンピュータ(Excel)、配布プリント、スマートフォン(任意)	
履修上の注意事項 講義内容についての質問は、原則としてメールおよび授業終了時に教室にて受け付けます。	
成績評価方法 ミニレポート(20%)、試験(80%)	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 保健情報統計学	
予習復習のアドバイス 最新かつ正しい情報の選択や収集、そしてその利用は、国家試験対策のみならず将来の実務にも関わります。 各回の講義の終わりに行うミニレポートや演習内容も含め、復習をしながら理解を深めて下さい。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	口腔衛生学	講義曜日	火曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
	小関健由	実務経験			
講義目標	一般目標				
	口腔保健推進の重要性を患者や社会に向けて発信する歯科衛生士になるために、口腔保健・歯科医療の幅広い学問領域全体を俯瞰的に把握し、この領域の専門知識やその相互関係を理解するために必要な基本的知識・態度を身に着ける。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔保健の重要性を患者や社会に向けて説明できる。 ・口腔の疾病・障害のメカニズムと治療法の概略を説明できる。 ・各ライフステージにおける口腔管理と疾病予防法の概要を説明できる。 				
回数	講義内容				
1	口腔保健概論				
2	歯・口腔の健康				
3	歯・口腔の構造と機能(1)				
4	歯・口腔の構造と機能(2)				
5	歯・口腔の付着物・沈着物(1)				
6	歯・口腔の付着物・沈着物(2)				
7	口腔疾患の疫学				
8	口腔清掃				
9	う蝕の予防				
10	フッ化物によるう蝕予防 (1)				
11	フッ化物によるう蝕予防 (2)				
12	歯周疾患の予防				
13	口臭				
14	その他の疾患・異常の予防				
15	口腔衛生学のまとめ				
16					
17					

18	
19	
20	
講義方法	
基本的に教科書に沿って授業が進行する。質問は授業中に受け付ける。	
講義で使用する機器・教材	
授業に教科書は必ず持参すること。	
履修上の注意事項	
予習・復習は学習効率から必須ですので、しっかり取り組むこと。	
成績評価方法	
期末試験により、授業の理解と知識の定着を評価（80％）し、更に、出席状況、授業態度を評価する（20％）。	
教科書・参考書	
【教科書】 歯科衛生学シリーズ 保健生態学	
予習復習のアドバイス	
授業中に授業内容を完全に理解するために、授業前の教科書の予習により内容を把握し、さらに授業後は復習にて知識の定着を図ること。	
歯科衛生士向けの専門雑誌から現在のトピックを把握すると、授業の深い理解に繋がると思われる。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	3年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	衛生行政・社会福祉学	講義曜日	時間割参照	講義回数	10
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	千脇隆志、高梨友也、笠原江利子、人見早苗	実務経験			
講義目標	一般目標				
	法律・制度等の基本的枠組みと、歯科衛生業務を行う上で必要な諸法規を学ぶことを通じて、日本の保健・医療・福祉制度と医療法制の理解することができる。				
	到達目標				
		歯科衛生業務を行う上で、日本の保健・医療・福祉制度と医療法制について理解し、社会に参画する資質を身につけることができる。			
回数	講義内容				
1	オリエンテーション・法制度論 関係法規 地域包括ケアシステム （千脇隆志）				
2	社会福祉（1）社会福祉行政・生活保護と法規 （千脇隆志）				
3	歯科衛生士と法律 （人見早苗）				
4	社会福祉（2）児童と家庭の福祉制度と法規・障がい者の福祉制度と法律 （千脇隆志）				
5	社会保障（1） 介護保険 社会福祉（3）高齢者の福祉制度と法律 （千脇隆志）				
6	医療関係職種の法律と業務 （高梨友也）				
7	社会保障（2）医療保険 年金保険 （高梨友也）				
8	社会保障（3）労働法規と労働保険 （高梨友也）				
9	歯科医師法・歯科技工士法（笠原江利子）				
10	歯科口腔保健の推進に関する法律、医療法 （笠原江利子）				
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					

18	
19	
20	
講義方法	
<p>テキストに沿って進めます。</p> <p>必要時、演習を行います。自ら考えて実践をイメージしていただきます。</p> <p>実践場面などの事例を紹介し、理解度を深めます。</p>	
講義で使用する機器・教材	
<p>パワーポイントやDVDなどを使用します。</p> <p>毎回、授業資料等を配布します。</p>	
履修上の注意事項	
<p>感染予防のため、健康には留意ください。</p> <p>感染対策については、学校の指示を確認し、授業に参加ください。</p> <p>教科書を必ず持参してください。</p>	
成績評価方法	
<p>試験70% 課題レポート20% 授業態度10%</p> <p>試験90%、授業態度10%（笠原江利子担当時間分）</p>	
教科書・参考書	
<p>【教科書】 歯科衛生学シリーズ 保健・医療・福祉の制度</p>	
予習復習のアドバイス	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科衛生士概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤 暁子、渡辺真輝、人見早苗	実務経験	<small>佐藤：一般歯科医院に10年勤務 渡辺：歯学部付属病院に6年、行政に2年勤務 人見：歯科診療所、養成校で45年勤務</small>		
講義目標	一般目標				
	歯科衛生士の職業としての役割や倫理観を理解し、患者に対して誠実に接する態度を養う。 歯科衛生士として必要な資質やスキル（専門知識、技術、コミュニケーション能力）を理解し、将来の職務に備える。 歯科衛生士としての成長を支えるために、自己研鑽と生涯学習の重要性を認識する。				
	到達目標				
	①医療従事者に求められる姿勢やイメージを理解し、プロフェッショナルとしての自覚を持つ。 ②歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務の範囲を理解し、その法的な責任と義務を認識できる。 ③患者とのコミュニケーション能力や、チーム医療の一員として働くための協調性を身につける。				
回数	講義内容				
1	学びの方法：専門学校生活をスタートさせるための授業の効き方について 自己PR				
2	社会から求められる医療従事者の姿とは：医療従事者のイメージ				
3	社会から求められる医療従事者の姿とは：仕事をするということ				
4	歯科衛生士の歴史と現状：Dental hygienistの語源と歯科衛生士の誕生				
5	歯科衛生士法と関連法規：歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務について				
6	職業倫理：プロフェッショナルとして期待される倫理的な行動基準				
7	医療倫理：医療者が守るべき行動の規範と基準				
8	歯科衛生士の倫理綱領：歯科衛生士業務を実践するための行動指針				
9	医療安全管理：ハインリッヒの法則とヒューマンエラー				
10	歯科衛生業務：報告・連絡・相談				
11	歯科衛生業務：挨拶とお礼状				
12	歯科医療倫理：医の倫理と患者の権利				
13	インフォームドコンセント：インフォームドコンセントの定義と実際				
14	歯科衛生過程：歯科衛生アセスメントとしての情報収集				
15	歯科衛生過程：歯科衛生アセスメントとしての情報収集				

講義方法

講義、演習、グループディスカッション

講義で使用する機器・教材

パワーポイント、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

- 1、歯科衛生学総論教科書を必ず持参すること。
- 2、配布資料は国家試験が終わるまで無くすことのないようにすること。

成績評価方法

期末試験 100%

教科書・参考書

最新 歯科衛生士教本 歯科衛生学総論 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修

予習復習のアドバイス

ファイルを準備し、配布資料やノートは整理し保管しましょう。

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	3時間目		
科目名	歯科臨床概論	講義曜日	水曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原紳	実務経験			
講義目標	一般目標				
	到達目標				
	1. 歯科衛生士として歯科診療全般について説明できる。 2. 歯科診療環境、診療機器、業務環境および内容について説明できる。 3. 各歯科診療分野ごとの診療対象、使用機器について説明できる。				
回数	講義内容				
1	歯科診療施設の概要・構成員				
2	歯科診療の業務内容・診療項目				
3	歯科診療における診査・検査項目				
4	年齢別歯科診療項目の変化・治療機器				
5	成長期における歯科診療（小児歯科・矯正歯科）・歯科予防関連				
6	歯科口腔外科				
7	いわゆる一般的歯科治療（う蝕治療、歯の欠損に対する処置）				
8	歯科診療における経費				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					

18	
19	
20	
講義方法	
板書・スライド ・基本的にプリント配布はしません。	
講義で使用する機器・教材	
・教科書 ・スライドプロジェクター	
履修上の注意事項	
・板書のノートへの筆記を原則とします。 ・講義で使ったスライドのプリント配布はしません。	
成績評価方法	
平常点、出席日数、筆記試験の結果を総合的に評価します。	
教科書・参考書	
【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版	
予習復習のアドバイス	
・毎回講義ごとに次回の講義範囲を示します。あらかじめ予習してください。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	4時間目（15:00-16:30）		
科目名	歯周療法学	講義曜日	木曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	石幡浩志	実務経験			
講義目標	一般目標				
	高齢社会の我が国では、歯周病罹患者のケアによる口腔の健康的機能維持が医学的、社会的に極めて重要である。歯科衛生士には国民のニーズを的確に捉え、その治療と予防に不可欠な歯周疾患の病態と、その予防、治療に関する基礎知識、治療手技および介助技術を履修する。				
	到達目標				
歯科医師と連携し、歯周疾患の病態を把握する検査・分析法を習得する。次に、病態のプロファイリングによって適切な治療計画が立案、患者に説明し理解を得るためのプロセスを学習する。そして治療計画に沿って行われる施術、治療効果の再評価、メンテナンス等の指導法を習得する。					
回数	講義内容				
1	歯周疾患の基礎知識－概要、歯周組織の構造と機能（Ⅰ編1，2章）				
2	歯周疾患の基礎知識－歯周病の分類（Ⅰ編3章の1）				
3	歯周病の原因、歯周医学、インプラント周囲疾患（Ⅰ編3章の2～4）				
4	歯周病の予防と治療の基本、治療の進め方、問診（Ⅱ編1章，2章の1）				
5	歯周病検査－視診、ポケット、動揺度プラーク・歯石付着（Ⅱ編2章2）				
6	歯周病検査－咬合、エックス線、スタディモデル、習癖（Ⅱ編2章3～5）				
7	歯周基本治療の目的と効果、内容初診から再評価（Ⅱ編3章1，2）				
8	薬物療法（Ⅱ編3章付），X線診査による診断と治療の実際				
9	歯周外科治療の目的、分類、禁忌、治癒形態（Ⅱ編4章1，2）				
10	歯周外科治療の器材、歯周外科手術の種類と適用（Ⅱ編4章3，4）				
11	歯周治療における機能回復治療、咬合調整、矯正、固定（Ⅱ編5章1～4）				
12	歯科用インプラント、メンテナンス、SPT（Ⅱ編5章5，6章）				
13	歯周治療の実際－歯科衛生業務のフロー（Ⅲ編1章1，2）				
14	リスクマネジメント－プラーク、全身状態、生活習慣（Ⅲ編1章3）				
15	歯周外科手術の介助、機能回復治療（咬合調整）（Ⅲ編1章5～8，付）				

16	
17	
18	
19	
20	
講義方法	
<p>スライドによる補完的説明を加えながら教科書の内容を中心に歯周病学を紹介します。 理解力の確認のための小テストを行い、必要に応じてレポートを提出していただきます。</p>	
講義で使用する機器・教材	
<p>教科書，配布プリントおよびスライド</p>	
履修上の注意事項	
<p>教科書におけるシラバス講義内容に記載されている項目について，授業前までに目を通しておくこと。 本科目は国家試験において主要な出題範囲に含まれることを念頭に，教科書の内容の入念な習得が求められる。 実際，国家試験では，教科書のあらゆる箇所から出題される事から，隅々まで内容を理解し，暗記すること。</p>	
成績評価方法	
<p>授業での履修態度と小テスト，レポート課題，および試験の成績を基に総合的に評価を行います。</p>	
教科書・参考書	
<p>【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯周病学</p>	
予習復習のアドバイス	
<p>本科目では臨床で実際に用いられる多くの専門用語が登場します。よって教科書を複数回熟読する必要があります。さらに，各種実習に併せて，教科書中の該当する箇所を読み返して下さい。</p>	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3時間目（13:15-14:45）		
科目名	歯内療法学	講義曜日	金曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	根本英二	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯髄疾患ならびに根尖性歯周組織疾患の原因および病態形成機構について理解する。さらに歯内疾患の成立機構と病態に基づいた治療の考え方、診断及び治療法を修得する。				
	到達目標				
	象牙質・歯髄の常態、同組織に生じる疾患およびその治療の進め方を理解する。				
	① 歯髄の構造と機能を説明できる。				
	② 歯髄・根尖性歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。				
	③ 歯髄・根尖性歯周組織疾患の症状を説明できる。				
	④ 歯髄・根尖性歯周組織疾患の診断および治療法を説明できる。				
回数	講義内容				
1	歯内療法の概要（象牙質知覚過敏症・歯髄疾患・根尖性歯周疾患・歯内-歯周病変）				
2	歯内療法の診査・診断				
3	歯髄保存療法（歯髄鎮痛消炎療法・覆髄法・暫間的間接歯髄覆髄法）				
4	歯髄除去療法（生活断髄法・抜髄法）				
5	根管治療の術式				
6	根管充填・根未完成歯の根管処置				
7	外科的歯内療法・歯の外傷				
8	歯内療法における安全対策・歯内療法における歯科衛生士の役割				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

16	
17	
18	
19	
20	
講義方法 講義資料に沿って進めながら、随時関連資料をスライドに示す。	
講義で使用する機器・教材 教科書とスライドを使用し、講義資料を事前に配布する。	
履修上の注意事項 欠席・遅刻は講義内容の理解に影響を及ぼすため、可能な限り出席を心掛けること。	
成績評価方法 授業への出席状況を参考にするとともに、定期試験の成績をもって評価する。	
教科書・参考書 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 （医歯薬出版）	
予習復習のアドバイス 事前に、教科書を読んでおくこと。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	3時間目(13:15-14:45)		
科目名	保存修復学	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	兼平正史	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯の硬組織疾患の種類とその病態の把握および検査法、疾患の診断と処置方法、修復に必要な前準備等の総括的事項の習得、コンポジットレジン修復、セメント修復、漂白法、インレー修復、接着材等の理論と術式について学び、保存修復における歯科衛生士の役割を学ぶ。				
	到達目標				
	保存修復学の意味と概要を理解し、各種修復法の工学的性質と修復法を習得する。				
回数	講義内容				
1	歯の保存療法とは、歯の保存療法の種類、歯の検査法 P.1 – P.13				
2	保存修復の概要、歯の硬組織疾患の種類と病態、窩洞 P.15 – P.31				
3	保存修復法の種類、保存修復治療の準備、歯の切削、歯髄保護 P.32 – P.45				
4	直接法修復、コンポジットレジン修復 P.46 – P.60				
5	セメント修復、歯の漂白 P.61 – P.78				
6	間接法修復、メタルインレー、レジンインレー P.79 – P.91				
7	CAD/CAMインレー、ラミネートベニア修復、合着材および接着材 P.92 – P.105				
8	補修修復、保存修復における歯科衛生士の役割 P.106 – P.116				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

16	
17	
18	
19	
20	
講義方法 講義はプロジェクターを用いて対面形式で行います。 授業中に使用するスライドはプリントにて配布予定。 授業開始時または途中で前回内容の復習テストを行い、理解の確認を行います。	
講義で使用する機器・教材 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学	
履修上の注意事項 授業前または授業中に前回の復習テストを行います。 授業内容についての予習・復習が必要です。	
成績評価方法 定期試験(100点)	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学	
予習復習のアドバイス 授業予定の教科書の箇所を一読し、授業に臨んでください。 授業スライドプリントに書き込みを行い、復習に使ってください。	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	4時間目(15:00-16:30)		
科目名	歯科補綴学	講義曜日	水曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原紳	実務経験			
講義目標	一般目標				
	・ 歯科補綴処置の適応症、治療方法、製作法、メンテナンスを示す。				
	到達目標				
	・ 歯科補綴法について説明できる。 ・ 歯科補綴後のメンテナンスについて説明できる。				
回数	講義内容				
1	歯科補綴法の概要				
2	歯科補綴に関する基礎知識				
3	咬合、顎機能の知識と検査方法				
4	歯科補綴治療の実際・使用機器・材料：間接法				
5	クラウンブリッジ補綴				
6	部分床義歯				
7	全部床義歯				
8	インプラント法				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					

18	
19	
20	
講義方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 板書、スライド、模型を示す。 	
講義で使用する機器・教材	
<ul style="list-style-type: none"> ・ PC,液晶プロジェクタ ・ 補綴治療で使用する機器は持参します。 	
履修上の注意事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義は基本的に板書しますので、ノート記入すること。 	
成績評価方法	
平常点、出席日数、筆記試験結果を総合的に判断	
教科書・参考書	
【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学	
予習復習のアドバイス	
毎講義後、次回講義範囲を示しますので、予習してください。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	1 時間目(9:00-10:30)(予定表を確認)		
科目名	口腔外科学	講義曜日	月、水曜日	講義回数	10
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	江副祐史、森島浩允、梶田倫功、柳沢佑太	実務経験			
講義目標	一般目標				
	口腔外科学の観点を理解し、基礎となる知識を習得する。				
	到達目標				
	口腔外科治療の対象となる疾患を理解し、治療方法を説明できる。				
回数	講義内容				
1	口腔外科学総論・インプラント（森島浩允）				
2	顎関節疾患、神経疾患（梶田倫功）				
3	全身疾患（柳沢佑太）				
4	悪性腫瘍（柳沢佑太）				
5	口腔粘膜疾患（江副祐史）				
6	顎口腔の炎症（森島浩允）				
7	顎顔面の外傷（森島浩允）				
8	歯・歯槽および周辺組織の外科（江副祐史）				
9	良性腫瘍・嚢胞（柳沢佑太）				
10	先天異常および後天異常（梶田倫功）				
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					

18	
19	
20	
講義方法	
第一回での講義で総論を示し、2回目以降より、各疾患の定義、治療方法について説明します。	
講義で使用する機器・教材	
視聴覚教材として、ビデオやPCを利用する。 適宜資料としてプリントを配布する。	
履修上の注意事項	
講義時間内での、記録の整理（情報収集と処理）をするように集中すること。	
成績評価方法	
学期末試験（100％）によって成績を評価する。	
教科書・参考書	
【教科書】 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版 【参考書】 白砂兼光、古郷幹彦 （編） “口腔外科学” 第3版	
予習復習のアドバイス	
自分でわからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで、調べるか、わかるまで聞くこと。それも、その時、その日のうちに。放置している時間が長ければ、それだけわからないことが増えてくる。	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	小児歯科学	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	小松偉二	実務経験	東北大学大学院歯学研究科に教員として16年勤務、一般歯科に歯科医師として10年勤務		
講義目標	一般目標				
	小児歯科の特徴と小児歯科診療の目的を理解する。				
	到達目標				
	小児の心身の発育、歯列、咬合の発育、小児の口腔にみられる疾患（特にう蝕と歯周疾患）に関する知識を習得する。				
回数	講義内容				
1	小児歯科学概論。心身の発達、小児の生理的特徴				
2	顔面頭蓋の発育。歯・歯列・咬合の発育とその異常				
3	小児の歯科疾患。小児虐待				
4	小児期の特徴と歯科的問題点。小児歯科における患者との対応法				
5	小児歯科における診療体系				
6	障害児の歯科治療				
7	う蝕予防				
8	小児の口腔健康管理。歯科診療室と器材の管理				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

16	
17	
18	
19	
20	
講義方法 教科書に沿ってすすめる。	
講義で使用する機器・教材 教科書 プリント	
履修上の注意事項 講義には必ず教科書を持参すること。	
成績評価方法 筆記試験 出席状況	
教科書・参考書 (教科書) 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 (医歯薬出版)	
予習復習のアドバイス 予習として事前に教科書に目を通すこと及びその日の講義内容を復習することでより理解を深めていく事が望ましい。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	歯科矯正学	講義曜日	金曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	大島絵恋	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科矯正学の観点を理解し、作業療法の基礎となる知識を習得する。				
	到達目標				
	歯科矯正治療の概要について理解し説明できる。				
回数	講義内容				
1	矯正歯科治療の概要 成長発育				
2	正常咬合と不正咬合				
3	矯正歯科診断				
4	矯正歯科治療と力				
5	矯正装置				
6	矯正歯科治療の実際				
7	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割①				
8	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割②☒				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 スライドを流して、教科書の内容を説明します。スライドは印刷して配布します。	
講義で使用する機器・教材 PCでスライドを流します。教科書を使用し、授業スライドのプリントは配布します。	
履修上の注意事項 特にありません。	
成績評価方法 試験の点数を100%として成績を評価する。	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版	
予習復習のアドバイス 教科書内容メインで進めます。国家試験で出されている問題、内容なども意識しながら進めます。事前に教科書の該当箇所を読んでおき、授業の理解を深めることが望ましいです。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	3時間目		
科目名	障がい者・高齢者歯科 (障がい者歯科)	講義曜日	金曜日	講義回数	5
		単位時間数	8	単位数	0.5
講師名	猪狩和子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	障害のある人のQOLを高める歯科的援助を行うために、障がい者の全身・精神・行動・顎口腔の特徴を理解し、これらの人々に対する歯科医療の機能と役割および支援法を習得する。				
	到達目標				
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念および障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。 2. 障がい者歯科医療体制とそこでの歯科衛生士の役割を説明できる。 3. 障がい者の歯科治療における行動調整法と留意点を説明できる。 4. 障がい者の口腔ケアの必要性と支援法を説明できる。 				
回数	講義内容				
1	・ 障害の概念・地域における障がい者歯科				
2	・ 歯科医療で特別な支援が必要な疾患				
3	・ 障がい者の歯科医療と行動調整				
4	・ 障がい者の健康支援と口腔衛生・リスク評価と安全管理				
5	・ 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割				
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

16	
17	
18	
19	
20	
講義方法 授業は、基本的に教科書に沿って章単位で、配布プリントをもとにスライドを使って進めていく。 講義時間内にその日の講義内容のポイントを示し、次回授業の始めに前回のポイントを中心に確認テストを行い、復習する。	
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター、配布プリント、教科書	
履修上の注意事項 他の臨床科目で学んでいる基本的な歯科疾患の特徴や治療法を理解して授業に臨むと、障害のある人における留意点の理解がしやすい。 毎回、前回授業時に配布したプリントを持参すること。	
成績評価方法 定期筆記試験（100％）により成績を評価する。 授業で行う確認テストは成績評価対象に含めない。	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学	
予習復習のアドバイス 5回の授業で教科書内容を網羅できないため、授業内容に相当する教科書の各章を予習として読んでおいてほしい。歯科医療のみならず、障がい者への医療・福祉・教育制度など関連分野にも視野を広げて障害と障害のある人への理解と関心を深めたい。	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	歯科衛生科	講義時間	4時間目(予定表参照)		
科目名	障がい者・高齢者歯科 (高齢者歯科)	講義曜日	水曜日(予定表参照)	講義回数	5
		単位時間数	8	単位数	0.5
講師名	田中恭恵	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。				
講義目標	到達目標				
	①全身および口腔の加齢と老化を説明できる。②人口の超高齢化による社会環境の変化を説明できる。③高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる。④高齢者の歯科治療時における介助と安全管理を説明できる。⑤高齢者の口腔健康管理を説明できる。⑥歯科訪問診療の意義と目的を説明できる。⑦高齢者のための社会保障と医療・保健・福祉を説明できる。⑧サルコペニアとフレイルを説明できる。⑨高齢者の終末期ケアを説明できる。⑩高齢者の誤嚥性肺炎の原因と口腔健康管理を説明できる。				
回数	講義内容				
1	高齢者を取りまく社会と環境				
2	加齢による身体的・精神的変化と疾患				
3	高齢者の状態の把握				
4	高齢者の口腔健康管理				
5	高齢者に関わる医療と介護				
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

16	
17	
18	
19	
20	
講義方法 教科書とスライドを中心とした講義	
講義で使用する機器・教材	
履修上の注意事項	
成績評価方法 授業への出席を前提として筆記試験の結果により評価する。	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学	
予習復習のアドバイス	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	1時間目（予定表を参照）		
科目名	歯科放射線学	講義曜日	火,木	講義回数	10
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	嶋田雄介	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科衛生士に必要なエックス線診断の基礎を学び、基本的な病態診断の技術を習得するとともに、放射線の生理学的影響やエックス線の性質、撮影法について、理解を深める。				
	到達目標				
	1. エックス線の性質を理解し、歯科医療における正しいエックス線の利用法と歯科衛生果たす役割を認識する。 2. エックス線診断の基礎を理解し、基本的な病態診断の技術を修得する。				
回数	講義内容				
1	エックス線の基礎知識				
2	歯科用エックス線装置				
3	放射線防護				
4	歯科用エックス線撮影法（口内法）				
5	歯科用エックス線撮影法（口外法）				
6	歯科用エックス線撮影法（パノラマ）				
7	CT MRI 超音波 放射線治療				
8	撮影実習(1)				
9	撮影実習(2)				
10	撮影実習(3)				
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法	
1～7回は座学 8、9、10回は実習形式で行う。	
講義で使用する機器・教材	
教科書および配布プリントを使用する。	
履修上の注意事項	
講義時間内にできるだけ理解を深められるよう、努めること。	
成績評価方法	
試験（90％）、受講態度（10％）によって成績を評価する。	
教科書・参考書	
【教科書】 歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学	
予習復習のアドバイス	
あとから復習ができるよう、講義内容を整理しておくこと。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	3年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	臨床歯科医学特論	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	一ノ瀬正和、小笠原康悦、藤井昌彦、 笠原紳、内藤章、中澤正絵、 飯久保正弘、遠藤佳子、佐藤房郎	実務経験			
講義目標	一般目標				
	様々なライフステージの対象を理解するために必要な基本的臨床医学の知識と主要な疾患を理解する。 人々の健康保持・増進における歯科衛生士の役割を理解する。				
	到達目標				
	全身の疾患に関する理解を深め、歯科衛生士として患者様を全体的に診る資質を身につける。				
回数	講義内容				
1	内科学① 内科学への導入（一ノ瀬正和）				
2	内科学② 感染症（一ノ瀬正和）				
3	内科学③ 代謝・内分泌疾患（一ノ瀬正和）				
4	内科学④ 消化器疾患（一ノ瀬正和）				
5	内科学⑤ 循環器疾患（一ノ瀬正和）				
6	内科学⑥ 呼吸器疾患（一ノ瀬正和）				
7	内科学⑦ 腎・泌尿器・血液疾患（一ノ瀬正和）				
8	内科学⑧ 免疫疾患。膠原病（一ノ瀬正和）				
9	内科学⑨ 神経疾患・精神疾患・がん（一ノ瀬正和）				
10	内科学⑩ 内科学まとめ（一ノ瀬正和）				
11	情動機能から見た認知症（藤井昌彦）				
12	口腔ケアと誤嚥性肺炎および老年症候群（藤井昌彦）				
13	アレルギー・金属アレルギー①（小笠原康悦）				
14	アレルギー・金属アレルギー②（小笠原康悦）				
15	症対策（後藤哲）				

16	周術期①（飯久保正弘）
17	衆術期②（飯久保正弘）
18	歯科臨床概論（感染）（笠原紳）
19	歯科補綴学（総論・各論）（笠原紳）
20	眼科学① 眼の外傷・障害（内藤章）
21	眼科学② 眼の疾患（白内障・緑内障・糖尿病網膜症）（内藤章）
22	歯科と糖尿病①（中澤正絵）
23	歯科と糖尿病②（中澤正絵）
24	摂食嚥下リハビリテーション①（遠藤佳子）
25	摂食嚥下リハビリテーション②（遠藤佳子）
26	摂食嚥下リハビリテーション③（遠藤佳子）
27	摂食嚥下リハビリテーション④（遠藤佳子）
28	パーキンソニズム（佐藤房郎）
29	脳血管障害（佐藤房郎）
30	認知症（上遠野純子）
講義方法	
実践場面などの事例を紹介し、理解度を深めます。	
講義で使用する機器・教材	
パワーポイントやDVDなどを使用します。	
履修上の注意事項	
質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。	
成績評価方法	
平常点、テスト（内科学・周術期・摂食嚥下リハ他）、7月からの国試模試における主要三科の点数を総合して評価する。	
教科書・参考書	
【教科書】 歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック（医歯薬出版）、歯科衛生士のための歯科臨床概論	
予習復習のアドバイス	
歯科臨床概論の講義は、内科学をはじめ、周術期、摂食嚥下、認知症など多岐にわたる。それぞれが国試において頻出の部分であるため、受講後には必ずまとめて復習を行うこと。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置Ⅰ-1	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	土門ひと美、渡辺真輝、佐藤暁子、加藤美智子、人見早苗	実務経験	渡辺：歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科予防処置についての概念と基本的な知識・技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	①歯科予防処置について（う蝕・歯周病・フッ化物の応用等）の概要と基礎知識を理解する。 ②歯周治療の方法を理解し歯周組織検査や治療に必要な器具の種類と特徴、使用方法を理解する。 ③歯周診査用器具を正しく操作する。				
回数	講義内容				
1	歯科予防処置論の概要 歯科予防処置とは p2～p14				
2	口腔の基礎知識 用語・歯式・口腔の構造と機能 p16～p27				
3	う蝕と歯周病の基礎知識 口腔内の付着物・沈着物、歯周病とは p28～p32				
4	歯周診査用器材について 器材配布・使用目的・管理・小豆つかみ実習				
5	歯周診査用器材の基本操作 姿勢・ポジション、把持・操作方法				
6	口腔内の情報収集① 口腔内の観察、実習オリエンテーション				
7	口腔内の観察 相互実習				
8	口腔内の観察 相互実習				
9	口腔内の情報収集② 検査 プローブ、エキスペローラーの基本操作				
10	プロービング、エキスペローリング実習(顎模型上)				
11	う蝕と歯周病の基礎知識 う蝕とは p32～37（土門）				
12	う蝕と歯周病の基礎知識 う蝕に関する指標と検査 p140～154（土門）				
13	フッ化物応用によるう蝕予防法① フッ化物歯面塗布 p206～217（土門）				
14	フッ化物応用によるう蝕予防法② フッ化物洗口 p217～223（土門）				
15	フッ化物応用によるう蝕予防法③ フッ化物配合歯磨剤、急性中毒への対応 p224～234（土門）				
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 ①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。 ②マネキン実習：マネキンを使用し基礎技術の習得を行う。 ③実習：自己または相互で実際の口腔内を利用し、感染対策を考慮しながら行う。	
講義で使用する機器・教材 歯科衛生学シリーズ歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版、顎模型、石膏柱、基本セット、マネキン、パワーポイント、プロジェクター、配布印刷物	
履修上の注意事項 ①講義を必ず受講し、実習に参加すること。 ②実習は、手技を継続して習得するため、欠席し学習がされていない者は実習参加を認めないことがあります。 ③身だしなみを整えて、忘れ物のないよう準備をしっかり行い臨むこと。	
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみ項目で総合的に評価する。	
教科書・参考書 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版	
予習復習のアドバイス ①予習として教科書をよく読んでおくこと。②専門用語とその意味を理解すること。 ③復習も兼ねて学習し、その積み重ねを充実させること。 ④実習については、事前に目的や術式を理解し、手順を確認しながら臨むこと。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置ⅠーⅡ（歯周）	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	歯科医師、渡辺真輝、佐藤暁子、 加藤美智子、人見早苗	実務経験	渡辺：歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務		
講義目標	一般目標				
	実習を通して、口腔疾患予防のための専門的知識・技術を習得し、患者へ一連の流れに沿った対応ができる技能を身につける。				
	到達目標				
	①実習で一連の流れに沿った処置と対応を身につける。②シックル型スケーラーの種類・特徴・使用方法を理解する。③スケーリング技法に必要な器具の把持法や適切なポジショニングを理解し、シックルスケーラーの基本操作を身に付ける。④PMTC・エアフローの目的を理解し、手技方法を身につける。				
回数	講義内容				
1	PMTC・エアフロー 講義 バイオフィルムとは p196～206				
2	PMTC・エアフロー 実習（顎模型上）				
3	歯周治療の基礎実習① 姿勢、ポジション、シックルスケーラーの構成、使用目的				
4	歯周治療の基礎実習② 操作方法 前腕回転運動、手根関節運動、手指屈伸運動				
5	歯周治療の基礎実習③ 操作方法 3種の運動、連続運動				
6	シックルスケーラー マネキン実習 下顎前歯				
7	シックルスケーラー マネキン実習 上顎前歯				
8	シックルスケーラー マネキン実習 下顎臼歯				
9	シックルスケーラー マネキン実習 上顎臼歯				
10	相互実習オリエンテーション				
11	相互実習 歯周組織検査、スケーリング、歯面研磨				
12	相互実習 歯周組織検査、スケーリング、歯面研磨				
13	相互実習 歯周組織検査、スケーリング、歯面研磨（0.5コマ）				
14	相互実習 歯周組織検査、スケーリング、歯面研磨				
15	相互実習 歯周組織検査、スケーリング、歯面研磨				
16	相互実習 歯周組織検査、スケーリング、歯面研磨（0.5コマ）				

17	実習振り返り、まとめ
18	
19	
20	
講義方法 ①教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。 ②マネキン実習：マネキンを使用し基礎技術の習得を行う。③自己または相互で実際の口腔内を利用し、感染対策に考慮しながら行う。	
講義で使用する機器・教材 歯科衛生学シリーズ歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版、顎模型、石膏柱、基本セット、マネキン、スケーラ（シッケル）、プロジェクター、パワーポイント、配布印刷物	
履修上の注意事項 ①講義を必ず受講し、実習に参加すること。 ②実習は、手技を継続して習得するため、欠席し学習がされていない者は実習参加を認めないことがあります。 ③身だしなみを整えて、忘れ物のないよう準備をしっかりと行い臨むこと。	
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみ項目で総合的に評価する。	
教科書・参考書 歯科衛生学シリーズ歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版	
予習復習のアドバイス ①予習として教科書をよく読んでおくこと。②専門用語とその意味を理解すること。③復習も兼ねて学習し、その積み重ねを充実させること。④実習については、事前に目的や術式を理解し、手順を確認しながら臨むこと。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置ⅠーⅡ（う蝕予防）	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	土門ひと美、小松偉二、渡辺真輝、佐藤暁子、加藤美智子	実務経験	渡辺：歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務		
講義目標	一般目標				
	う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識・技術および態度を習得する。				
	到達目標				
①フッ化物歯面塗布法の術式を説明できる。②フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる。③う蝕活動性試験の目的・種類を説明できる。④う蝕活動性試験を実施できる。⑤対象者のう蝕活動性を評価、問題点を列記しう蝕予防プログラムを立案できる。⑥小窩裂溝填塞法の種類と特徴を理解できる。⑦小窩裂溝填塞法の術式を説明できる。					
回数	講義内容				
1	カリオロジー学（土門）				
2	フッ化物の応用 p206～231 フッ化物の基本、薬剤、保管方法など（土門）				
3	フッ化物の応用 p206～231 歯面塗布の術式、洗口法、フッ化物配合歯磨剤について（土門）				
4	フッ化物の応用 p231～234 フッ化物の毒性と急性中毒への対応（土門）				
5	フッ化物の応用 p234～236 ライフステージ別のフッ化物局所応用（土門）				
6	フッ化物の応用 フッ化物洗口・フッ化物歯面塗布法（綿球法・トレー法）の術式と注意点（渡辺）				
7	唾液・プラーク（土門）				
8	う蝕に関する検査(カリエスリスクテスト)① p140～152 う蝕活動性試験の意義▶条件▶目的（土門）				
9	う蝕に関する検査（カリエスリスクテスト）② 実習のオリエンテーション（渡辺）				
10	う蝕活動性試験の実際③RDテスト・SM・LB・CAT21test・緩衝能・唾液分泌量（相互実習）（渡辺）				
11	う蝕活動性試験の実際⑤まとめ（講義） 土門				
12	う蝕活動性試験の実際④RDテスト・SM・LB・CAT21test・緩衝能・唾液分泌量（相互実習）（渡辺）				
13	う蝕活動性試験の実際⑥検査結果の評価（渡辺）				
14	小窩裂溝填塞法① p236～242 適応歯と種類、術式、注意点など 小松 渡辺 補助DH(横澤、山本)				
15	小窩裂溝填塞法② 術式の実際（マネキン実習）（小松、渡辺）				

16	科目試験振り返り、まとめ（土門）
17	
18	
19	
20	

講義方法

- ①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。
- ②マネキン実習：マネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③実習：自己または相互で実際の口腔内を利用し、感染対策を考慮しながら行う。

講義で使用する機器・教材

（講義）P C、プロジェクター、配布印刷物
（実習）マネキン、顎模型、基本セット（ミラー、ピンセット等）、簡易防湿（コットンロール等）、フッ化物塗布一式、カリエスリスク検査一式、ラバーダム一式、シーラント一式

履修上の注意事項

- ①講義を必ず受講し、実習に参加すること。
- ②実習は、手技を継続して習得するため、欠席し学習がされていない者は実習参加を認めないことがあります。
- ③身だしなみを整えて、忘れ物のないよう準備をしっかりと行い臨むこと。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみ項目で総合的に評価する。

教科書・参考書

歯科衛生学シリーズ歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んでおくこと。②専門用語とその意味を理解すること。
- ③復習も兼ねて学習し、その積み重ねを充実させること。
- ④実習については、事前に目的や術式を理解し、手順を確認しながら臨むこと。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	前期	学 年	2 年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置Ⅱ - (歯周) 前期① (32回：演習)	講義曜日	変則	講義回数	16
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子、人見早苗、押野まみ、 渡辺 真輝、加藤美智子、佐藤暁子	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 人見:歯科診療所、歯科衛生士養成機関等で46年間勤務 押野:歯科衛生士として歯科医院に7年間勤務 渡辺:歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務 加藤:歯科衛生士として21年間歯科医院、専門学校教員7年勤務、歯科関連企業デモンストレーター、臨時保健所職員、在宅訪問 佐藤:一般歯科医院に10年勤務		
講義目標	一般目標				
	ライフステージを通じた口腔健康の維持・増進を支援するために、歯周治療に関する知識、技術と医療職としての態度を習得する。				
	到達目標				
	①歯周治療の方法を理解し歯周組織検査に必要な器具の種類と特徴・使用方法を理解する。 ②グレーシーキュレット等器具の種類・特徴を説明できる。③SRP技法に必要な器具の把持法や、マネキン上で適切なポジショニングを理解し、グレーシーキュレットの基本操作ができる。 ④シャープニングに必要な基本的手順・方法を理解する。				
回数	講義内容				
1	SRPの基礎技術①P Gキュレット基本操作（石膏棒）				
2	SRPの基礎技術①P Gキュレット基本操作（石膏棒）				
3	SRP基礎技法①P（マネキン実習） #43～#33(唇側・舌側)				
4	SRP基礎技法① (マネキン実習) #43～#33(唇側・舌側)				
5	SRP基礎技法②P（マネキン実習） #44～#47(唇側)				
6	SRP基礎技法②（マネキン実習） #34～#37(舌側)				
7	SRP基礎技法③P（マネキン実習） #34～#37(唇側)				
8	SRP基礎技法③（マネキン実習） #44～#47(舌側)				
9	シャープニング基礎実習①P				
10	下顎のグレーシーキュレット操作の振り返り ※実技試験公示				
11	SRP基礎技法④P（マネキン実習） #13～#23(唇側・口蓋側)				
12	SRP基礎技法④（マネキン実習） #13～#23(唇側・口蓋側)				
13	SRP基礎技法⑤P（マネキン実習） #24～#27(口蓋・頬側)				
14	SRP基礎技法⑤（マネキン実習） #24～#27(口蓋・頬側)				
15	SRP基礎技法⑥P（マネキン実習） #14～#17(口蓋・頬側)				
16	SRP基礎技法⑥（マネキン実習） #14～#17(口蓋・頬側)				

17	
18	
19	
20	
講義方法	
<p>①講義：教科書・パワーポイントを利用し,内容の理解を促す。また,講義内容の復習を心掛ける。②基礎技術では,机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。③基礎技法では,マネキンを使用し,実際の口腔内で器具操作を想定し器具操作を行う。また、器材の安全な操作と衛生管理を学ぶ。④適時ミニテスト・課題を出すことがある。</p>	
講義で使用する機器・教材	
<p>PC,プロジェクター,顎模型,基本セット (M23,Gキュレット#5/#6,#7/#8,#11/#12,#13/#14,プローブ,エキスパローラー,ミラー、ピンセット) グローブ,ゴーグル,サンドペーパー,拡大鏡,シャープニングストーン,テスター,分度器,油性ペン,トレーニング用石膏模型</p>	
履修上の注意事項	
<p>実習については,限られた時間で区切られた部位を行うため,欠席すると大きく学習に影響することとなってしまう。くれぐれも欠席が無いように,学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は,教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。</p>	
成績評価方法	
<p>実技試験,出席状業,実習・学習態度</p>	
教科書・参考書	
<p>歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導 第2版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学</p>	
予習復習のアドバイス	
<p>①予習として教科書をよく読んで実習に臨む。②グレーシー型キュレットの構造と特徴をよく理解する。③基礎で理解したポジションや把持法,刃部と歯面の関係など十分に把握すること。④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。⑤長期の休みや臨地・臨床実習期間においても,器具を全く持たない期間を作らないよう自己トレーニングを行うこと。</p>	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置Ⅱ - (歯周) 前期② (32回：演習)	講義曜日	変則	講義回数	15
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子、人見早苗、押野まみ、 渡辺 真輝、加藤美智子、佐藤暁子	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 人見:歯科診療所,歯科衛生士養成機関等で46年間勤務 押野:歯科衛生士として歯科医院に7年間勤務 渡辺:歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務 加藤:歯科衛生士として21年間歯科医院、専門学校教員7年勤務、歯科関連企業デモンストレーター、臨時保健所職員、在宅訪問 佐藤:一般歯科医院に10年勤務		
講義目標	一般目標				
	ライフステージを通じた口腔健康の維持・増進を支援するために、歯周治療に関する知識、技術および医療職としての態度を習得する。				
	到達目標				
①歯周治療の方法を理解し歯周組織検査に必要な器具の種類と特徴・使用方法を理解する。②グレーシーキュレット等器具の種類・特徴を説明できる。③SRP技法に必要な器具の把持法や、マネキン上で適切なポジショニングを理解し、グレーシーキュレットの基本操作ができる。④シャープニングに必要な基本的手順・方法を理解する。⑤PTCの目的を理解し基本的技術を身に着ける。					
回数	講義内容				
1	シャープニング基礎実習②③				
2	総合自由練習 実技試験オリエンテーション				
3	実技試験				
4	実技試験				
5	再試験または自己トレーニング				
6	再試験または自己トレーニング				
7	PTC・歯面研磨 (講) ④				
8	PTC・歯面研磨 (講) ④ ※PTC・歯面研磨基礎実習オリエンテーション				
9	PTC・歯面研磨基礎実習 (マネキン)				
10	PTC・歯面研磨基礎実習 (マネキン) ※相互実習オリエンテーション				
11	A.歯周組織検査・口腔診査 B.問診・医療面接. PCR・バイタ (0.5コマ)				
12	A.歯周組織検査・口腔診査 B.問診・医療面接. PCR・バイタ				
13	A.歯周組織検査・口腔診査 B.問診・医療面接. PCR・バイタ				

14	B.歯周組織検査・口腔診査 A.問診・医療面接. PCR・バイタル (0.5コマ)
15	B.歯周組織検査・口腔診査 A.問診・医療面接. PCR・バイタル
16	B.歯周組織検査・口腔診査 A.問診・医療面接. PCR・バイタル
17	
18	
19	
20	
講義方法	
①講義：教科書・パワーポイントを利用し,内容の理解を促す。また,講義内容の復習を心掛ける。②基礎技術では,机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。③基礎技法では,マネキンを使用し,実際の口腔内で器具操作を想定し器具操作を行う。また、器材の安全な操作と衛生管理を学ぶ。④適時ミニテスト・課題を出すことがある。	
講義で使用する機器・教材	
P C,プロジェクター,顎模型,基本セット (M23,Gキュレット#5/#6,#7/#8,#11/#12,#13/#14,プローブ,エキスポローラー,ミラー、ピンセット) グローブ,ゴーグル,サンドペーパー,拡大鏡,シャープニングストーン,テスター,分度器,油性ペン,トレーニング用石膏模型,低速エンジン,コントラアングル,歯面研磨剤	
履修上の注意事項	
実習については,限られた時間で区切られた部位を行うため,欠席すると大きく学習に影響することとなってしまふ。くれぐれも欠席が無いように,学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は,教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。	
成績評価方法	
実技試験,出席状業,実習・学習態度	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導 第2版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学	
予習復習のアドバイス	
①予習として教科書をよく読んで実習に臨む。②グレーシー型キュレットの構造と特徴をよく理解する。③基礎で理解したポジションや把持法,刃部と歯面の関係など十分に把握すること。④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。⑤長期の休みや臨地・臨床実習期間においても,器具を全く持たない期間を作らないよう自己トレーニングを行うこと。	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置Ⅱ - (歯周) 後期① (32回：演習)	講義曜日	変則	講義回数	17
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子、人見早苗、押野まみ、 渡辺 真輝、加藤美智子、佐藤暁子	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 人見:歯科診療所、歯科衛生士養成機関等で46年間勤務 押野:歯科衛生士として歯科医院に7年間勤務 渡辺:歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務 加藤:歯科衛生士として21年間歯科医院、専門学校教員7年勤務、歯科関連企業デモンストレーター、臨時保健所職員、在宅訪問 佐藤:一般歯科医院に10年勤務		
講義目標	一般目標				
	ライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標				
①患者さんの全身の健康状態と口腔内の状況を把握し、情報を収集し口腔衛生指導ができる。②口腔内で歯周組織検査を実施できる（プロービング,BOP,動揺度,PCR,根分岐部病変等）③口腔内の状況に応じて歯周治療に必要なグレーシー型キュレット,シックル型スケーラー等器具,器材を選択し操作できる。④歯周治療に必要な機器の操作ができる。（歯面研磨・歯面清掃,超音波スケーラー・エアースケーラー,歯面清掃器等）					
回数	講義内容				
1	A.SRP相互実習（上下顎前歯部） B.歯科保健指導計画立案（0.5コマ）				
2	A.SRP相互実習（上下顎前歯部） B.歯科保健指導計画立案				
3	A.SRP相互実習（上下顎前歯部） B.歯科保健指導計画立案				
4	B.SRP相互実習（上下顎前歯部） A.歯科保健指導計画立案（0.5コマ）				
5	B.SRP相互実習（上下顎前歯部） A.歯科保健指導計画立案				
6	B.SRP相互実習（上下顎前歯部） A.歯科保健指導計画立案				
7	パワースケーラー⑥				
8	パワースケーラー、エアブラシ等使用（マネキン）				
9	A.SRP相互実習(下顎右側臼歯部) B.歯周組織検査結果、歯科保健指導①：PCR(前回と比較) (0.5コマ)				
10	A.SRP相互実習(下顎右側臼歯部) B.歯周組織検査結果、歯科保健指導①：PCR(前回と比較)				
11	A.SRP相互実習(下顎右側臼歯部) B.歯周組織検査結果、歯科保健指導①：PCR(前回と比較)				
12	B.SRP相互実習（下顎右側臼歯部） A..歯周組織検査結果、歯科保健指導①：PCR(前回と比較)（0.5コマ）				
13	B.SRP相互実習（下顎右側臼歯部） A..歯周組織検査結果、歯科保健指導①：PCR(前回と比較)				

14	B.SRP相互実習（下顎右側臼歯部）A..歯周組織検査結果、歯科保健指導①：PCR(前回と比較)
15	A.SRP相互実習（下顎左側臼歯部）B.評価、歯科保健指導②：PCR(2度染め)（0.5コマ）
16	A.SRP相互実習（下顎左側臼歯部）B.評価、歯科保健指導②：PCR(2度染め)
17	A.SRP相互実習（下顎左側臼歯部）B.評価、歯科保健指導②：PCR(2度染め)
18	B.SRP相互実習（下顎左側臼歯部）A.評価、歯科保健指導②：PCR(2度染め)（0.5コマ）
19	B.SRP相互実習（下顎左側臼歯部）A.評価、歯科保健指導②：PCR(2度染め)
20	B.SRP相互実習（下顎左側臼歯部）A.評価、歯科保健指導②：PCR(2度染め)
講義方法	
講義で使用する機器・教材 P C,プロジェクター,顎模型,スケーラー各種（M23,Gキュレット#5/#6,#7/#8,#11/#12,#13/#14,プローブ,エキスポローラー,ミラー,ピンセット）,グローブ,ゴーグル,フェイスシールド,超音波スケーラー,エアースケーラー,歯面研磨器材,PMTC器材,シャープニング器材,染めだし液,ワセリン,綿棒,ダップングラス,歯磨きセット,手鏡,様式一式（口腔診査票・問診・歯周組織検査・指導計画表・歯科衛生士実地指導記録）	
履修上の注意事項 実習については,限られた時間で区切られた部位を行うため,欠席すると大きく学習に影響することとなってしまふ。くれぐれも欠席が無いように,学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は,教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。	
成績評価方法 科目試験,出席状業,実習・学習態度,課題評価	
教科書・参考書 歯科衛生士学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学	
予習復習のアドバイス ①2年前期で学習した器具操作は,理解し教科書が無くても実施できるようにする。②実習予定部位・内容について,器具、器材操作方法を教科書を読み予習しておく。③自分が担当する患者役の口腔内の問題点と生活習慣や食習慣等との関わりを考察し理解,口腔衛生指導に反映する。④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。休みの期間に,器具を全く持たない期間を作らないこと。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置Ⅱ - (歯周) 後期② (32回：演習)	講義曜日	変則	講義回数	16
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子、人見早苗、押野まみ、渡辺 真輝、加藤美智子、佐藤暁子	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 人見:歯科診療所,歯科衛生士養成機関等で46年間勤務 押野:歯科衛生士として歯科医院に7年間勤務 渡辺:歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務 加藤:歯科衛生士として21年間歯科医院、専門学校教員7年勤務、歯科関連企業デモンストレーター、臨時保健所職員、在宅訪問 佐藤:一般歯科医院に10年勤務		
講義目標	一般目標				
	人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	①患者さんの全身の健康状態と口腔内の状況を把握し,情報を収集し口腔衛生指導ができる。②口腔内で歯周組織検査を実施できる(プロービング,BOP,動揺度,PCR,根分岐部病変等)③口腔内の状況に応じて歯周治療に必要なグレーシー型キュレット,シクル型スケーラー等器具,器材を選択し操作できる。④歯周治療に必要な機器の操作ができる。(歯面研磨・歯面清掃,超音波スケーラー・エアースケーラー,歯面清掃器等)				
回数	講義内容				
1	A.SRP相互実習(上顎左側臼歯部) B.ルートプレーニング技術:下顎歯肉縁下操作(模型)(0.5コマ)				
2	A.SRP相互実習(上顎左側臼歯部) B.ルートプレーニング技術:下顎歯肉縁下操作(模型)				
3	A.SRP相互実習(上顎左側臼歯部) B.ルートプレーニング技術:下顎歯肉縁下操作(模型)				
4	B.SRP相互実習(上顎左側臼歯部) B.ルートプレーニング技術:下顎歯肉縁下操作(模型)(0.5コマ)				
5	B.SRP相互実習(上顎左側臼歯部) B.ルートプレーニング技術:下顎歯肉縁下操作(模型)				
6	B.SRP相互実習(上顎左側臼歯部) B.ルートプレーニング技術:下顎歯肉縁下操作(模型)				
7	A.SRP相互実習(上顎右側臼歯部) B.ルートプレーニング技術:上顎歯肉縁下操作(模型)(0.5コマ)				
8	A.SRP相互実習(上顎右側臼歯部) B.ルートプレーニング技術:上顎歯肉縁下操作(模型)				
9	A.SRP相互実習(上顎右側臼歯部) B.ルートプレーニング技術:上顎歯肉縁下操作(模型)				
10	B.SRP相互実習(上顎右側臼歯部) A.ルートプレーニング技術:上顎歯肉縁下操作(模型)(0.5コマ)				
11	B.SRP相互実習(上顎右側臼歯部) A.ルートプレーニング技術:上顎歯肉縁下操作(模型)				
12	B.SRP相互実習(上顎右側臼歯部) A.ルートプレーニング技術:上顎歯肉縁下操作(模型)				
13	A.歯周組織検査(再評価) B.評価、医療面接、歯科保健指導③:PCR(0.5コマ)				

14	A.歯周組織検査（再評価） B.評価、医療面接、歯科保健指導③：PCR
15	A.歯周組織検査（再評価） B.評価、医療面接、歯科保健指導③：PCR
16	B.歯周組織検査（再評価） A.評価、医療面接、歯科保健指導③：PCR（0.5コマ）
17	B.歯周組織検査（再評価） A.評価、医療面接、歯科保健指導③：PCR
18	B.歯周組織検査（再評価） A.評価、医療面接、歯科保健指導③：PCR
19	まとめ ※科目試験は、専任教員が行う。
20	
講義方法	
講義で使用する機器・教材	
P C,プロジェクター,顎模型,スケーラー各種（M23,Gキュレット#5/#6,#7/#8,#11/#12,#13/#14,プローブ,エキスプローラー,ミラー,ピンセット）,グローブ,ゴーグル,フェイスシールド,超音波スケーラー,エアースケーラー,歯面研磨器材,PMTc器材,シャープニング器材,染めだし液,ワセリン,綿棒,ダップングラス,歯磨きセット,手鏡,様式一式（口腔診査票・問診・歯周組織検査・指導計画表・歯科衛生士実地指導記録）	
履修上の注意事項	
実習については,限られた時間で区切られた部位を行うため,欠席すると大きく学習に影響することとなってしまふ。くれぐれも欠席が無いように,学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は,教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。	
成績評価方法	
科目試験,出席状業,実習・学習態度,課題評価	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導 第2版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学	
予習復習のアドバイス	
①2年前期で学習した器具操作は,理解し教科書が無くても実施できるようにする。②実習予定部位・内容について,器具、器材操作方法を教科書を読み予習しておく。③自分が担当する患者役の口腔内の問題点と生活習慣や食習慣等との関わりを考察し理解,口腔衛生指導に反映する。④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。休みの期間に,器具を全く持たない期間を作らないこと。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	3年
学科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置Ⅲ- 1	講義曜日	変則	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子、人見早苗、 押野まみ、渡辺真輝	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 人見:歯科診療所,歯科衛生士養成機関等で46年間勤務 押野:歯科衛生士として歯科医院に7年間勤務 渡辺:歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔健康管理に必要な知識を総合的に学び,臨床へ応用できる実践力を身に着ける。				
	到達目標				
①歯周病の概要を理解し,その治療方法や全身疾患との関わりについて説明できる。②歯周病を臨床で予防することの重要性を理解し,実践できる。③歯周病の治療におけるメンテナンス,SPTの重要性を理解し説明できる。④症例に対して問題点を抽出し,歯科衛生過程に基づき指導計画を立て説明できる。⑤口腔健康管理の視点を持ち,全身の健康と口腔の健康の関わりを広義に深く考える。					
回数	講義内容				
1	歯周病概要・治療法①				
2	歯周病概要・治療法②				
3	歯周病と全身疾患①				
4	歯周病の予防①				
5	メンテナンスとSPT① ※食生活を中心とした生活習慣と口腔衛生管理に関する事例課題の提示				
6	メンテナンスとSPT②				
7	口腔健康管理と歯周病①				
8	口腔健康管理まとめ(振り返り) ① ※前期科目試験範囲提示				
9	プラークコントロールに関する事例検討				
10	プラークコントロールに関する事例検討				
11	食生活と歯科疾患①				
12	事例演習				
13	食生活を中心とした生活習慣と口腔衛生管理に関する事例検討				
14	食生活を中心とした生活習慣と口腔衛生管理に関する事例検討				

15	科目試験
16	
17	
18	
19	
20	
講義方法	
①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。②演習：グループワークを通して司会・記録・発言者の役割を理解し討論が進みやすい配慮ができる。③発表：症例に対する検討を深め、自分の考えをまとめ発表することができる。④適時、ミニテストや課題を出すことがある。	
講義で使用する機器・教材	
P C, プロジェクター, iPad, データ変換用アダプター, レーザーポインター, タイマー, マイク, 卓上ベル	
履修上の注意事項	
①与えられた課題に対して、クリティカルシンキングを基本とした考察と、常にエビデンスへの探求心を持つ。②グループワークについては、グループ内で役割を決めて計画的に進行するため、くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。③欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。④ミニテストを行うこともある。	
成績評価方法	
科目試験, 学習態度 ミニテスト・課題提出状況	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学	
予習復習のアドバイス	
①グループワークでは、それぞれの役割の責任を果たすように、深い考察と探求心をもって、積極的に発言し発表に取り組む。②自分の学習状況での得意、不得意な部分を把握し、国家試験の学習計画に反映する。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	3年
学科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置Ⅲ-2	講義曜日	変則	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子、人見早苗、 押野まみ、渡辺真輝	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 人見:歯科診療所、歯科衛生士養成機関等で46年間勤務 押野:歯科衛生士として歯科医院に7年間勤務 渡辺:歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔健康管理に必要な知識を総合的に学び、臨床へ応用できる実践力を身に着ける。				
	到達目標				
①歯周病患者の事例を、患者中心の歯科医療の視点で捉え、症例検討・発表を通して、臨床での歯科予防処置を考察する。②様々な歯科保健指導を想定し、歯科予防処置に関連づけて、より効果的な口腔健康管理を行う基盤を身に着ける。③3年間の総合的な振り返りを行いながら、歯科医療職として自己研鑽の継続の必要性を理解し、国家試験や臨床に備える。					
回数	講義内容				
1	う蝕・歯周病の特性◎				
2	口腔内の情報収集◎				
3	災害歯科保健と歯科衛生士の活動◎				
4	栄養と歯科衛生士業務の活動◎				
5	摂食嚥下障害の実際◎				
6	歯科衛生過程の要点◎				
7	症例検討①				
8	症例検討②				
9	症例検討③				
10	症例検討④				
11	症例発表				
12	症例発表				
13	歯科予防処置まとめ、科目試験について				
14	科目試験				
15	歯科予防処置(国試対策を中心にまとめ：歯周基本治療)				

16	歯科予防処置(国試対策を中心にまとめ：その他総合的に)
17	
18	
19	
20	
講義方法	
①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。②演習：グループワークを通して司会・記録・発言者の役割を理解し討論が進みやすい配慮ができる。③発表：症例に対する検討を深め、自分の考えをまとめ発表することができる。④適時、ミニテストや課題を出すことがある。	
講義で使用する機器・教材	
P C, プロジェクター, iPad, データ変換用アダプター, レーザーポインター, タイマー, マイク, 卓上ベル	
履修上の注意事項	
①与えられた課題に対して、クリティカルシンキングを基本とした考察と、常にエビデンスへの探求心を持つ。②グループワークについては、グループ内で役割を決めて計画的に進行するため、くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。③欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。④ミニテストを行うこともある。	
成績評価方法	
科目試験、出席状況、学習態度、課題提出状況・評価	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導 第2版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 , 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版	
予習復習のアドバイス	
①1, 2年で学んだことを再度見直し反復学習する。 ②自分の学習状況での得意・不得意な部分を把握し, 国家試験の学習計画に反映する。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科保健指導Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	24
		単位時間数	45	単位数	3
講師名	佐藤 暁子、渡辺真輝、人見早苗	実務経験	佐藤：一般歯科医院に10年勤務 渡辺：歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務 人見：歯科診療所、養成校で45年勤務		
講義目標	歯科衛生士として、口腔健康の重要性を理解し、個々の患者に対して適切な保健指導を行うための基本的な知識と技術を身につける。				
	到達目標				
	①歯科保健指導の定義と健康教育について説明できる。				
	②歯科衛生の基礎となる適切なコミュニケーションをとることができる。				
③各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。					
回数	講義内容				
1	歯科保健指導合同演習：口腔衛生指導見学				
2	歯科保健指導合同演習：ブラッシング指導体験				
3	歯科保健指導の概要：予防の概念とわが国の健康施策				
4	歯科保健指導の概要：歯科保健指導と健康教育について				
5	う蝕と歯周病の基礎知識：う蝕と歯周病の違い				
6	食生活指導のための栄養学：栄養学の基礎知識と食生活について				
7	食生活指導のための栄養学：習慣的飲料物と身体への影響				
8	保健行動支援のための基礎知識：①コミュニケーションスキル				
9	保健行動支援のための基礎知識：②健康信念モデルと行動変容ステージモデル				
10	保健行動支援のための基礎知識：③ストレスコーピング				
11	情報収集と情報処理				
12	医療面接 メディカルインタビュー				
13	ライフステージに対応した歯科衛生介入①妊産婦：一般的特徴と歯科的特徴				
14	ライフステージに対応した歯科衛生介入②乳児期：一般的特徴と歯科的特徴				
15	ライフステージに対応した歯科衛生介入③幼児期：一般的特徴と歯科的特徴				
16	ライフステージに対応した歯科衛生介入④学齢期：一般的特徴と歯科的特徴				

17	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑤青年期～高齢期：一般的特徴と歯科的特徴
18	口腔習癖 口腔筋機能療法 MFT
19	ライフステージに対応した歯科衛生介入：歯科衛生研究
20	ライフステージに対応した歯科衛生介入：歯科衛生研究
21	ライフステージに対応した歯科衛生介入：歯科衛生研究発表
22	ライフステージに対応した歯科衛生介入：歯科衛生研究
23	ライフステージに対応した歯科衛生介入：歯科衛生研究
24	ライフステージに対応した歯科衛生介入：歯科衛生研究発表
25	
26	
27	
28	
29	
30	
講義方法 座学、実習、演習、グループワーク	
講義で使用する機器・教材 パワーポイント、プロジェクター、配布印刷物、iPad	
履修上の注意事項 遅刻や欠席をせず、歯科保健指導論の基礎を身につけられるよう意欲的に学んでください。	
成績評価方法 筆記試験 70% 課題30%	
教科書・参考書 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導 全国歯科衛生士教育協議会監修	
予習復習のアドバイス 覚えるべき専門用語が多いので、必ず事前に教科書を熟読し、講義後も授業内容を復習すること。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	保健指導Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	佐藤 暁子、渡辺真輝、人見早苗	実務経験	佐藤：一般歯科医院に10年勤務 渡辺：歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務 人見：歯科診療所、養成校で45年勤務		
講義目標	一般目標				
	各種清掃用具の特性と使用方法を理解し、患者に最適な用具を選択できる能力を養う。 実技を通して正しいブラッシング技術を習得し、患者に対して指導できる技術を養う。 口腔健康管理の重要性を理解し、対象者に対する適切な管理方法を提供できる。				
	到達目標				
	①歯ブラシの各部位（毛先、ハンドル、ヘッドなど）の特徴と役割を説明できる。 ②患者に適した口腔清掃用具を選択し、使用方法を指導できる。 ③口腔健康管理用品（歯ブラシ、歯磨き粉、フロス、洗口液など）の選択基準を理解し、患者に最適な提案ができる。				
回数	講義内容				
1	歯ブラシの基礎知識:歯ブラシの構造と特徴				
2	各種清掃用具：フロス、歯間ブラシ、ワンタフト舌ブラシの適応部位、使用方法				
3	歯磨剤の基礎知識：歯磨剤の成分と歯磨剤の選択				
4	洗口液：洗口液の成分と選択方法				
5	ブラッシング法：ブラッシングテクニック				
6	ブラッシング法実習：各ブラッシング法の実習 ブラッシング指導				
7	製品体験：歯科製品の製造過程、製品選定の背景				
8	製品体験：予防商品について				
9	口腔清掃自習法：歯垢染色剤の成分と使用上の注意				
10	口腔清掃自習法：歯垢染色剤の成分と使用上の注意				
11	口腔清掃指導法：術者磨き相互実習 実地指記録				
12	口腔清掃指導法：術者磨き相互実習 実地指記録				
13	各種清掃用具：電動歯ブラシの種類と特徴				
14	関連製品：デンタルガム・タブレット口腔機能発達不全				
15	口腔健康管理：口腔健康管理の必要性和対象者				
16	口腔健康管理：口腔健康管理用品				
17					

18	
19	
20	
講義方法	
講義、演習、実習、グループディスカッション、相互実習	
講義で使用する機器・教材	
パワーポイント、プロジェクター、配布資料、歯ブラシセット、顎模型	
履修上の注意事項	
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論	
成績評価方法	
筆記試験 100%	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会	
予習復習のアドバイス	
学習し実習したことは自身でも実践すること。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科保健指導Ⅱ（臨床応用）	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	佐藤 暁子、渡辺真輝、人見早苗	実務経験	<small>佐藤：一般歯科医院に10年勤務 渡辺：歯学部付属病院に6年、行政に2年勤務 人見：歯科診療所、養成校で45年勤務</small>		
講義目標	一般目標				
	学校歯科保健の一環として、集団指導を行うための効果的な媒体資料を作成できる能力を身につける。 1年生と2年生が合同で発表を行い、学校歯科保健に関する知識や実践を共有する機会を持つ。 口腔機能低下症の定義や症状、原因について理解し、早期発見と予防の重要性を学ぶ。				
	到達目標				
	①指導中の予想される問題点や対応方法をシミュレーションし、改善点を把握できる。 ②口腔機能低下症の検査を実際に行い、その結果を解釈できる。 ③訪問先での環境や患者の状態に応じた対応方法を柔軟に選べる。 ④窒息を予防するための方法を患者や家族に指導できる。				
回数	講義内容				
1	対象者の把握：集団を対象とする保健指導				
2	学校歯科保健：集団指導媒体資料作成				
3	学校歯科保健：集団指導媒体資料作成				
4	学校歯科保健：リハーサル				
5	学校歯科保健：集団指導媒体資料作成				
6	学校歯科保健：リハーサル				
7	学校歯科保健：集団指導媒体資料作成				
8	学校歯科保健：1・2年生年合同発表				
9	学校歯科保健：1・2年生年合同ブラッシング指導				
10	口腔機能低下症とは				
11	口腔機能低下症：検査実習				
12	配慮を要する者への歯科衛生士介入：要介護高齢者				
13	配慮を要する者への歯科衛生士介入：デンチャーケア				
14	SMT：（サリバリーマルチテスト検査実習）				
15	配慮を要する者への歯科衛生士介入：訪問診療で配慮すべきこと				
16	窒息の対処法：誤嚥と窒息の違い				

17	
18	
19	
20	
講義方法 座学、演習、実習、グループワーク	
講義で使用する機器・教材 パワーポイント、プロジェクター、iPad	
履修上の注意事項 遅刻や欠席、忘れ物をせず、歯科保健指導の基礎を身につけられるよう意欲的に学んでください。	
成績評価方法 筆記試験 100%	
教科書・参考書 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修	
予習復習のアドバイス 教科書をよく読んで、予習復習してください。 授業で学んだことは国家試験問題集で復習しましょう。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	3年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	保健指導Ⅲ-1	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤 暁子、渡辺真輝、人見早苗	実務経験	<small>佐藤：一般歯科医院に10年勤務 渡辺：歯学部付属病院に6年勤務、行政に2年勤務 人見：歯科診療所、養成校で45年勤務</small>		
講義目標	一般目標				
	特別用途食品の種類とその分類方法を理解し、患者に適した食品選びを支援できる能力を身につける。 患者に対する口腔健康管理方法を理解し、適切なケアを提供できるようになる。 経口摂取が困難な患者に対して、非経口摂取（経管栄養など）の管理方法を学び、適切なケアを提供できるようになる。				
	到達目標				
	①特別用途食品（治療食、流動食、低塩食など）の種類と特徴を理解できる。 ②患者に対する口腔健康管理方法を理解し、適切なケアを提供できるようになる。 ③SMTを使用して唾液の検査を行い、得られたデータを元に口腔ケアの必要性を評価できる。 ④禁煙指導の方法を学び、患者に対して効果的に禁煙をサポートできるようになる。				
回数	講義内容				
1	食形態の基礎知識：特別用途食品の分類				
2	食形態：実習 ユニバーサルデザインフード				
3	食形態：実習 ユニバーサルデザインフード				
4	口腔健康管理：認知症				
5	デンチャーケア：義歯安定剤				
6	知覚過敏に対するケア				
7	口腔健康管理：脳血管障害				
8	食形態：食事介助				
9	食形態：食事介助				
10	口腔機能の発達に関する指導				
11	SMT：サリバリーマルチテスト実習				
12	SMT：サリバリーマルチテスト実習				
13	禁煙指導				
14	禁煙指導				
15	口腔健康管理：非経口摂取				
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 座学・実習・演習（相互実習、調理実習）	
講義で使用する機器・教材 マネキン、顎模型、歯ブラシセット	
履修上の注意事項 遅刻や欠席をせず、歯科保健指導論の基礎を身につけられるよう意欲的に学んでください。	
成績評価方法 筆記試験 100%	
教科書・参考書 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会	
予習復習のアドバイス 国家試験問題集を使用して、予習復習してください。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	3年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科保健指導Ⅲ-2	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	佐藤 暁子、渡辺真輝、人見早苗	実務経験	佐藤：一般歯科医院に10年勤務 渡辺：歯学部付属病院に6年、行政に2年勤務 人見：歯科診療所、養成校で45年勤務		
講義目標	一般目標				
	学校歯科保健のための集団指導資料を作成し、効果的な指導方法を視覚的に表現できる能力を養う。 口腔衛生管理の基本的な方法を理解し、実際のケアに活かせる知識を得る。 口腔機能低下症に対する改善方法を理解し、実際に介入する方法を学ぶ。				
	到達目標				
	①目的に応じた資料を作成し、視覚的にわかりやすく情報を伝える。 ②相互に実習を行い、口腔ケアの技術を向上させ、フィードバックを受けて改善点を理解する。 ③口腔機能低下症に対する改善方法を理解し、改善策を提案できる。 ④高齢者や障害者の生活自立度を評価し、適切な支援方法を理解する。				
回数	講義内容				
1	学校歯科保健:概要 対象者の把握				
2	学校歯科保健:集団指導資料作成				
3	学校歯科保健:集団指導資料作成				
4	学校歯科保健:リハーサル				
5	学校歯科保健：集団指導資料作成				
6	学校歯科保健：リハーサル				
7	学校歯科保健 集団指導資料作成				
8	口腔ケア基礎知識：口腔衛生管理の実際				
9	口腔ケア：マナボット実習				
10	口腔ケア：マナボット実習				
11	口腔ケア：相互実習				
12	口腔ケア：相互実習				
13	口腔機能低下症：検査 実習				
14	口腔機能低下症：改善のための介入				
15	生活自立度の対策				
16	分析のためのデータ				

17	
18	
19	
20	
講義方法 座学、マネキンを使用した実習、相互実習	
講義で使用する機器・教材 マナポット、顎模型、歯ブラシセット	
履修上の注意事項 遅刻や欠席をせず、歯科保健指導論の基礎を身につけられるよう意欲的に学んでください。	
成績評価方法 筆記試験 100%	
教科書・参考書 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導 全国歯科衛生士教育協議会監修	
予習復習のアドバイス 講義、実習後は国家試験問題集で復習しましょう。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	栄養学	講義曜日	木	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笹山由貴	実務経験			
講義目標	一般目標				
	栄養学の基礎、ライフステージ別の特性、適切な栄養管理を理解する。				
	到達目標				
	歯科衛生士として、健康づくりにおける食生活改善指導ができる。				
回数	講義内容				
1	栄養の概念				
2	栄養素の種類とはたらき				
3	栄養素の消化・吸収				
4	健康と栄養				
5	食事と食品				
6	ライフステージと栄養				
7	栄養ケア・マネジメント まとめ				
8	定期テスト				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法	
スライドとテキストを使用	
講義で使用する機器・教材	
スライド	
履修上の注意事項	
1/3以上の欠席で、試験が受けられないので留意すること。	
成績評価方法	
定期試験100%	
教科書・参考書	
【教科書】 歯科衛生学シリーズ 栄養学	
予習復習のアドバイス	
予習 教科書に目を通しておくこと	
復習 ノートや教科書を復習し知識を整理すること。授業終了後に配布するワークを解くこと。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅰ	講義曜日	木曜日	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	高田雄京、笠原江利子、加藤美智子 加藤礼子、渡辺真輝	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助の基礎知識と技術を学び、身につける。歯科材料、機器の種類、使用目的、用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
	歯科診療補助および歯科材料、機器に関する知識を学び、その基本を習得し、臨床の場に対応できるようにする。				
回数	講義内容				
1	歯科診療補助の概念 医療安全と感染予防				
2	滅菌と消毒				
3	A滅菌機器消毒器の取り扱い ユニット各部の名称と操作方法 B基本器具の名称と取り扱い 器具の持ち方手渡し方法				
4	A滅菌機器消毒器の取り扱い ユニット各部の名称と操作方法 B基本器具の名称と取り扱い 器具の持ち方手渡し方法				
5	A印象採得について アルジネート印象材練和 B患者誘導 配慮を必要とする患者				
6	A印象採得について アルジネート印象材練和 B患者誘導 配慮を必要とする患者				
7	連合印象採得 Aアルジネート印象採得 Bシリコーン印象採得（講義と演習）				
8	連合印象採得 Aアルジネート印象採得 Bシリコーン印象採得（講義と演習）				
9	連合印象採得 A寒天・アルジネート印象採得 B石膏の取り扱い（講義と演習）				
10	連合印象採得 A寒天・アルジネート印象採得 B石膏の取り扱い（講義と演習）				
11	歯科材料学総論 歯科材料の基本性質（高田）				
12	印象材の種類と用途、性質 アルジネート印象材、寒天印象材（高田）				
13	印象材の種類と用途、性質 シリコーンゴム印象材（高田）				
14	模型材料 歯科用石膏の種類と用途、性質（高田）				
15	A合着材の取り扱い B接着剤の取り扱い				
16	A合着材の取り扱い B接着剤の取り扱い				
17	A成形歯冠修復材の取り扱い B仮封、仮着材の取り扱い				
18	A成形歯冠修復材の取り扱い B仮封、仮着材の取り扱い				
19	Aその他材料 即時重合レジン、コンパウンド ワックス Bラバーダム				

20	Aその他材料 即時重合レジン、コンパウンド ワックス Bラバーダム
21	合着材・接着材の性質 種類と用途 (高田)
22	成形歯冠修復材の性質 種類と用途 (高田)
23	仮封・仮着材の性質 種類と用途 (高田)
24	その他の材料 (即時重合レジン) コンパウンド ワックス (高田)
25	A共同動作 ポジショニング、ライティング B共同動作、器具の受け渡し
26	A共同動作 ポジショニング、ライティング B共同動作、器具の受け渡し
27	Aバキューム操作 B相互実習に向けた動作確認
28	Aバキューム操作 B相互実習動に向けた動作確認
29	A相互実習 シリンジ、バキューム操作 B器具材料実習
30	A相互実習 シリンジ、バキューム操作 B器具材料実習
講義方法	
教科書、スライド、プリント、実習	
講義で使用する機器・教材	
その都度連絡します。	
履修上の注意事項	
欠席、遅刻早退、をしないように意欲的に臨むこと。私語はしない。教科書、筆記用具、メモの準備をしてください。実習では身だしなみを整え、感染防止に努めること。忘れ物をしないように注意してください。	
実習（特に相互実習）は、手技を継続して習得するため、事前実習を欠席した者の実習参加を認めないことがあります。	
成績評価方法	
出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみ・忘れ物チェック項目で総合的に評価する。	
教科書・参考書	
歯科診療補助 歯科材料 歯科機器 指示のあったもの 参考：おしごとハンドブック 各専門科目の教科書	
予習復習のアドバイス	
教科書・プリントを使用して予習復習すること。 専門用語は調べたり質問をし、分からない文字は読めるようにしておいてください。	

講義要項（シラバス）シート					
年度	2025年度	時期	通年	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	56
		単位時間数	116/120	単位数	
講師名	加藤美智子、加藤礼子、笠原江利子、渡辺真輝	実務経験			
講義目標	一般目標				
	各科の歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び、身に着ける。歯科材料、機器の種類、目的用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
		医療安全について説明と実践ができる。歯科材料や器械の説明、取り扱い、共同動作における各種器具の取り扱いができる患者対応ができる。			
回数	講義内容				
1	歯科診療補助Ⅱの目的と到達目標 歯科診療補助の基本 記録、略語、各種名称 1年期末テスト解説				
2	感染予防 医療廃棄物				
3	共同動作の基本 相互実習について				
4	共同動作の基本 フォーハンドテクニック バキュームテクニック				
5	共同動作の基本 A口腔観察とバキュームテクニック B相互実習手順と動作確認 フラッシング				
6	共同動作の基本 A口腔観察とバキュームテクニック B相互実習手順と動作確認 フラッシング				
7	相互実習 歯面清掃A ポリッシングと洗浄 バキューム B器具器材学習 (超音波SCマネキン) (0.5コマ)				
8	相互実習 歯面清掃A ポリッシングと洗浄 バキューム B器具器材学習 (超音波SCマネキン)				
	相互実習 歯面清掃A ポリッシングと洗浄 バキューム B器具器材学習 (超音波SCマネキン)				
9	相互実習 歯面清掃A (エアブラシ) バキューム B器具器材学習 (超音波SCマネキン) (0.5コマ)				
10	相互実習 歯面清掃A (エアブラシ) バキューム B器具器材学習 (超音波SCマネキン)				
11	相互実習 歯面清掃A (エアブラシ) バキューム B器具器材学習 (超音波SCマネキン)				
	A印象材の取り扱い (アルジネート印象材) B各種セメントの取り扱い (0.5コマ)				
12	A印象材の取り扱い (アルジネート印象材) B各種セメントの取り扱い				
13	A印象材の取り扱い (アルジネート印象材) B各種セメントの取り扱い				
14	A連合印象採得 2級窩洞 (寒天・アルジネート) 石膏注入 B片顎概形印象相互 C超音波SC相互 (0.5コマ)				
15	A連合印象採得 2級窩洞 (寒天・アルジネート) 石膏注入 B片顎概形印象相互 C超音波SC相互				
16	A連合印象採得 2級窩洞 (寒天・アルジネート) 石膏注入 B片顎概形印象相互 C超音波SC相互				
	A連合印象採得 2級窩洞 (寒天・アルジネート) 石膏注入 B片顎概形印象相互 C超音波SC相互 (0.5コマ)				
17	A石膏トリミング B器具学習				
18	A石膏トリミング B器具学習				
19	A口腔内写真撮影 B歯肉圧排と支台歯印象採得 説明				
20	A口腔内写真撮影 B歯肉圧排と支台歯印象採得				
21	A口腔内写真撮影 B歯肉圧排と支台歯印象採得				

	A口腔内写真撮影 B 仮封（石膏模型利用）（0.5コマ）
22	A口腔内写真撮影 B 仮封（石膏模型利用）（0.5コマ）
23	A口腔内写真撮影 B 仮封（石膏模型利用）
24	プロビジョナルレストレーション（前歯既成冠）器具の取り扱い（0.5コマ）
25	プロビジョナルレストレーション（前歯既成冠）器具の取り扱い
26	Aプロビジョナルレストレーション（前歯既成冠）器具の取り扱い
	プロビジョナルレストレーション（大白歯）（0.5コマ）
27	プロビジョナルレストレーション（大白歯）
28	プロビジョナルレストレーション（大白歯）
29	Aプロビジョナルレストレーションの仮着脱着 B成形歯冠修復材の（マネキンⅡ級Ⅴ級窩洞）
30	Aプロビジョナルレストレーションの仮着脱着 B成形歯冠修復材の（マネキンⅡ級Ⅴ級窩洞）
31	試験
	歯科臨床と診療補助 A保存修復 B歯内療法 C歯冠補綴 / 薬品の管理（0.5コマ）
32	歯科臨床と診療補助 A保存修復 B歯内療法 C歯冠補綴 / 薬品の管理
33	歯科臨床と診療補助 A保存修復 B歯内療法 C歯冠補綴 / 薬品の管理
34	歯科臨床と診療補助 A欠損補綴 B口腔外科 C歯周外科 /配慮を要する患者対応（0.5コマ）
35	歯科臨床と診療補助 A欠損補綴 B口腔外科 C歯周外科 /配慮を要する患者対応
36	歯科臨床と診療補助 A欠損補綴 B口腔外科 C歯周外科 /配慮を要する患者対応
37	歯科臨床と診療補助 インプラント A麻酔 B診療室の感染対策
38	歯科臨床と診療補助 インプラント A麻酔 B診療室の感染対策
	歯科臨床と診療補助 インプラント A麻酔 B診療室の感染対策（0.5コマ）
39	歯科臨床と診療補助 行政歯科 病院歯科（0.5コマ）
40	歯科臨床と診療補助 行政歯科 病院歯科
41	歯科臨床と診療補助 行政歯科 病院歯科
42	歯科臨床と診療補助 審美歯科
43	歯科臨床と診療補助 審美歯科
44	歯科臨床と診療補助 矯正歯科
45	歯科臨床と診療補助 矯正歯科
	実技試験事前学習（課題A B C D）（0.5コマ）
46	実技試験事前学習（課題A B C D）
47	実技試験事前学習（課題A B C D）
48	手術時の感染予防対策 メディコムジャパンセミナー
49	手術時の感染予防対策 メディコムジャパンセミナー
50	実技試験

51	実技試験
52	実技試験
53	実技試験評価
54	実技試験評価
55	試験 (0.5コマ)
56	試験 まとめ
講義方法 教科書、スライド、、プリント 講義、 実習	
講義で使用する機器・教材 教科書、他その都度連絡します。	
履修上の注意事項 欠席、遅刻早退、をしないように意欲的に臨むこと。教科書、筆記用具、メモの準備をしてください。 実習では身だしなみを整えること。忘れ物をしないように注意してください。 実習（特に相互実習）は、事前実習を欠席した者は支障をきたすことがあり実習参加を認めないことがあるので注意してください。	
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみ・忘れ物チェック項目で総合的に評価する。	
教科書・参考書 歯科診療補助、歯科材料、歯科機器、各臨床科目教科書、指示のあったもの 参考：おしごとハンドブック	
予習復習のアドバイス 教科書・プリントを使用して予習復習すること。 専門用語は調べ、分からない文字は読めるようにしておいてください。	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅱ (摂食嚥下リハビリテーション)	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	(120)	単位数	(4)
講師名	遠藤佳子、川田真純、 吉田由里子、河瀬聡一郎	実務経験			
講義目標	一般目標				
	摂食嚥下障害を有する対象者及び高齢者について、多職種協働によるチームアプローチの中で、歯科衛生士が果たす役割を認識し、適切な摂食嚥下指導を実施することが出来る。				
	到達目標				
	高齢者の摂食嚥下リハビリテーションを説明し、アセスメントと嚥下指導が実施出来る。 障害児者の摂食嚥下リハビリテーションを説明し、アセスメントと嚥下指導が実施出来る。				
回数	講義内容				
1	摂食嚥下障害とは（遠藤）				
2	摂食嚥下障害評価（遠藤）				
3	間接訓練（遠藤）				
4	直接訓練（遠藤）				
5	発達期の摂食嚥下機能障害の原因（川田）				
6	発達期の摂食嚥下機能障害の評価（吉田）				
7	発達期の摂食嚥下機能障害の訓練・指導（吉田）				
8	摂食嚥下障害の評価と対応（河瀬）				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
講義方法					
講義・演習を行う。					

講義で使用する機器・教材

適宜PC等を使用する。

河瀬先生： せんべい2枚/人、水、とろみ剤、スプーン、コップ

他、演習で使用するものは、前もって連絡する。

履修上の注意事項**成績評価方法**

複数の教員でカリキュラム運営を行うため、それぞれでの小テスト、課題、実習態度などを踏まえて総合的に評価する。

教科書・参考書

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版（医歯薬出版株式会社）

予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	通年	学年	3年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅲ－①	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	加藤美智子、加藤礼子、 笠原江利子、渡辺真輝	実務経験			
講義目標	一般目標 歯科臨床との関連について考えることができるようになる。				
	到達目標 治療に必要な知識を習得し、治療の準備、術中の介補、術後の管理が適切にできる。患者の状態状況に応じた対応が出来る。				
回数	講義内容				
1	歯科診療補助Ⅲの概要 相互実習について A口腔内観察と歯式と略称記録練習 B歯面清掃（超音波）とバキューム				
2	歯科診療補助Ⅲの概要 相互実習について A口腔内観察と歯式と略称記録練習 B歯面清掃（超音波）とバキューム				
3	相互実習A感染予防について 相互実習シミュレーション（エアブラシ） B共同動作 口腔観察と記録				
4	相互実習A感染予防について 相互実習シミュレーション（エアブラシ） B共同動作 口腔観察と記録				
5	相互実習A歯面清掃（エアブラシ バキューム）B歯面清掃マネキン（超音波SC バキューム）				
6	相互実習A歯面清掃（エアブラシ バキューム）B歯面清掃マネキン（超音波SC バキューム）				
7	相互実習 A全顎印象採得アルジネート印象材 B各種セメント練和、診療器具器材について				
8	相互実習 A全顎印象採得アルジネート印象材 B各種セメント練和、診療器具器材について				
9	歯科医院実習の診療補助研究				
10	歯科医院実習の診療補助研究				
11	実技総合訓練 A器具、材料の取り扱い B患者管理と対応				
12	実技総合訓練 A器具、材料の取り扱い B患者管理と対応				
13	A実技試験 B国試対策				
14	A実技試験 B国試対策				
15	筆記試験 試験解説				

講義方法

教科書、スライド、、プリント 講義、実習

講義で使用する機器・教材

教科書、他その都度連絡します。

履修上の注意事項

欠席、遅刻早退、をしないように意欲的に臨むこと。私語はしない。教科書、筆記用具、メモの準備をしてください。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物をしないように注意してください。

実習（特に相互実習）は、事前実習を欠席した者は支障をきたすことがあり実習参加を認めないことがあるので注意してください。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみ・忘れ物チェック項目で総合的に評価する。

教科書・参考書

歯科診療補助、歯科材料、歯科機器、指示のあったもの

参考：おしごとハンドブック、各専門科目の教科書

予習復習のアドバイス

教科書・プリントを使用して予習復習すること。

専門用語は調べ、分からない文字は読めるようにしておいてください。略称を覚える。

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度		時期	後期	学年	3年
学科	歯科衛生科		講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅲ－②		講義曜日	時間割参照	講義回数	16
			単位時間数	30	単位数	1
講師名	加藤美智子、加藤礼子、 渡辺真輝、笠原江利子		実務経験			
講義目標	一般目標					
	歯科臨床との関連について考えることができるようになる。 審美歯科の治療を通して、種類や方法、カウンセリング、コンサルテーションを学び、ホワイトニング法を習得する。					
	到達目標					
審美歯科に必要な知識を習得し、意義を理解する。、ホワイトニングの術式、特徴が説明できるようになる。また実践できる。						
回数	講義内容					
1	審美歯科の診療補助 カウンセリングとコンサルテーション					
2	ホワイトニングについて					
3	相互実習 Aカスタムトレーのための印象採得		B石膏注入			
4	相互実習 A カスタムトレーのための印象採得		A石膏注入			
5	相互実習 Aカスタムトレーのための印象採得		B石膏注入		トリミング	
6	相互実習 A カスタムトレーのための印象採得		A石膏注入		トリミング	
7	期末試験					
8	相互実習 Aホワイトニングの測色と口腔内写真		B WHの歯面清掃、リトラクター、粘膜保護			
9	相互実習 A ホワイトニングの測色と口腔内写真		B WHの歯面清掃、リトラクター、粘膜保護			
10	相互実習 Aオフィスホワイトニングホワイトニング		Bカスタムトレー作成		プレス、患者指導	
11	相互実習 Aオフィスホワイトニングホワイトニング		Bカスタムトレー作成		プレス、患者指導	
12	相互実習 Aオフィスホワイトニングホワイトニング		Bカスタムトレー作成		プレス、患者指導	
13	相互実習 Aオフィスホワイトニングホワイトニング		Bカスタムトレー作成		プレス、患者指導	
14	相互実習 Aホワイトニングの評価とメンテナンス実習		B歯面清掃ペースト 測色、口腔内写真 クリニカルポイント			
15	相互実習 Aホワイトニングの評価とメンテナンス実習		B歯面清掃ペースト 測色、口腔内写真 クリニカルポイント			
16	歯科診療補助まとめ 国試対策					
17						

18	
19	
20	
講義方法	
教科書、スライド、、プリント、講義、実習	
講義で使用する機器・教材	
その都度連絡します。連絡、掲示に注意してください。	
履修上の注意事項	
欠席、遅刻早退、をしないように意欲的に臨むこと。感染防止に努める。教科書、筆記用具、メモの準備をしてください。	
実習では身だしなみを整えること。忘れ物をしないように注意してください。	
実習（特に相互実習）は、事前実習を欠席した者は支障をきたすことがあり実習参加を認めないことがあるので注意してください。	
成績評価方法	
出席状況・受講態度・提出物・定期試験・実技・相互実習・身だしなみ・忘れ物チェック項目で総合的に評価する。	
教科書・参考書	
歯科診療補助、歯科衛生士ベーシックスタンダードホワイトニング、指示のあったもの 参考：おしごとハンドブック、各専門科目の教科書	
予習復習のアドバイス	
教科書・プリントを使用して予習復習すること。 専門用語は調べ、分からない文字は読めるようにしておいてください。	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	歯科衛生科	講義時間	4時間目		
科目名	臨床検査法	講義曜日	水曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	後藤弓里子、砂田咲子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科衛生士として患者の全身状態を把握するため、基本的な臨床検査法を学ぶ。				
	到達目標				
	臨床検査の基本的知識と有病者への対応を習得する。				
回数	講義内容				
1	臨床検査総論、生理機能検査①				
2	生理機能検査②、生理機能検査③				
3	血液学的検査、出血・凝固系検査				
4	感染症検査①、感染症検査②				
5	肝機能検査、腎機能検査				
6	糖尿病、代謝・内分泌検査、免疫、血清、アレルギー検査				
7	自己免疫、輸血、悪性腫瘍検査、病理学的検査				
8	口腔領域の検査、国家試験対策				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 パワーポイントを用い講義(対面、オンライン、オンデマンド) および実習を行う。	
講義で使用する機器・教材 プロジェクター、PC、体温計（水銀、電子、耳孔用電子体温計など）、血圧計（水銀、自動血圧計など）、パルスオキシメーター	
履修上の注意事項 正当な理由がない限り、授業を欠席しないこと。	
成績評価方法 平常点10%、試験評価90%とする。	
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 臨床検査	
予習復習のアドバイス 授業の前日に教科書を読んでくると理解しやすい。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	感染予防学	講義曜日	水曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	遠藤英昭	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助の際に必要な感染予防の基礎的知識、技術および管理を習得する。				
	到達目標				
①患者および診療従事者に、感染への配慮ができる ②診療用器材・設備に、感染へ配慮した使用方法や維持・管理ができる ③感染予防対策、廃棄物管理などができる ④薬剤や器械などに、滅菌・消毒へ配慮した準備・操作・管理ができる ⑤感染性疾患を理解し、感染予防を実践することができる。					
回数	講義内容				
1	感染の成立と院内感染（感染症概論・法規など）				
2	感染の標準予防策（スタンダード・プリコーション）				
3	滅菌・消毒の概念と手段（方法、消毒薬、抗菌スペクトル）				
4	歯科器材の滅菌・消毒（技工物の取り扱い含む）				
5	医療廃棄物の取り扱い（法令と具体的取り扱い）				
6	針刺し切創・血液体液曝露事故（予防策・曝露後の対応法）				
7	歯科医院の感染対策（院内感染対策ガイドライン）				
8	歯科で重要な感染性疾患（肝炎・HIVなどの感染症）				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法 対面による口頭講義	
講義で使用する機器・教材 液晶プロジェクター、教科書、配布プリント	
履修上の注意事項 毎回、講義に出席し、前回の講義内容をプリントと教科書で復習すること。	
成績評価方法 定期試験、出席状況、追加レポート	
教科書・参考書 【教科書】 歯科医療における国際標準感染予防対策テキスト 滅菌・消毒・洗浄	
予習復習のアドバイス 配布されたプリントの国家試験問題を集中的に復習する。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	3年
学科	歯科衛生科	講義時間	1, 2 時間目		
科目名	医療事務（歯科）	講義曜日	水曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	星麻衣	実務経験			
講義目標	一般目標				
	円滑な歯科医院業務に貢献できるよう、社会保険制度の仕組み及び保険請求に関する基礎知識を習得する。				
	到達目標				
	レセプトと保険請求の仕組みを理解し、迅速で正確な歯科請求事務能力を修得し、臨床の場に応用できる能力を身につける。☑				
回数	講義内容				
1	レセプトと社会保険の仕組み				
2	C1、C2の治療算定（カルテ作成&レセプト作成）				
3	前回の復習、基本診療～充填（カルテ作成&レセプト作成）				
4	前回の復習、基本診療～充填、修形、歯冠修復（カルテ作成&レセプト作成）				
5	前回の復習、投薬の計算（薬剤計算）				
6	前回の復習、C3（Pul）の治療算定（カルテ、レセプト作成）☑				
7	前回の復習、C3（Per）の治療算定（カルテ、レセプト作成）				
8	前回の復習、歯周疾患の治療算定（カルテ、レセプト作成）				
9	前回の復習、ブリッジの治療算定（カルテ、レセプト作成）				
10	前回の復習、義歯の治療算定（カルテ、レセプト作成）				
11	レセコン（講義で実際に使用した問題を入力）				
12	レセコン（講義で実際に使用した問題を入力）				
13	レセコン（講義で実際に使用した問題を入力）				
14	レセコン（講義で実際に使用した問題を入力）				
15	評価試験				
16					
17					

18	
19	
20	
講義方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科事務：講義（必要に応じてパワポを使用しながら） ・ レセコン:パソコン実習 	
講義で使用する機器・教材	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科保険診療ハンドブック、点数早見表、レセプト ・ 電卓 	
履修上の注意事項	
<p>歯科保険請求事務は、歯科衛生士と関連が深い。授業を理解するためにも欠席することの無いよう意欲的に臨んでほしい。</p>	
成績評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆記試験(80%) ・ 受講態度(10%) ・ 授業課題内作成(10%) 	
教科書・参考書	
<p>【教科書】 歯科保険診療ハンドブック</p>	
予習復習のアドバイス	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 投薬などの薬価計算は、忘れることの無いように練習してほしい。 	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	後期	学 年	2年
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	介護技術	講義曜日	時間割参照	講義回数	10
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	本地光弘、横尾由香、大方広志、 河瀬総一郎、上遠野純子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	・ 歯科診療補助において対象の疾患や障害の特徴を理解し、適切に動作介助が行えるようにする。				
	到達目標				
	・ 高齢者の生理学的変化を踏まえ、歯科診療の際の安楽な姿勢の取り方を支援できる。 ・ 歯科診療において治療台などに移動する際の動作の介助が安全に行えるようになる ・ 認知症事例の心身の状態を理解し、その介助のポイントを踏まえた介助が行える。				
回数	講義内容				
1	地域医療と多職種連携について（河瀬）				
2	災害医療（河瀬）0.5コマ				
3	訪問歯科診療の実際① 9:45-11:15（大方）				
4	訪問歯科診療の実際② 11:30-12:15（大方）0.5コマ				
5	介護の基本（介護保険等）①（横尾）				
6	介護の基本（介護保険等）② 小テスト（横尾）0.5コマ				
7	高齢者の生理的变化(バイタイルサインの診方)／脳血管疾患事例の症状と障害像(援助のポイント)				
8	起居動作・移乗動作の介助の仕方（教室・廊下での実習）（本地）				
9	W/Cの動かし方、介助の仕方／杖歩行介助の仕方1（実習室）9:45～（本地）				
10	W/Cの動かし方、介助の仕方／杖歩行介助の仕方2（実習室）～12:15（本地）0.5コマ				
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法	
講義・演習を行う。	
講義で使用する機器・教材	
適宜P C等を使用する。	
履修上の注意事項	
技術習得のため、演習を中心に講義を行うため、動きやすい恰好で参加すること。45分ずつに分けて講義を行うコマがあるため、15時間の講義であるが、講義回数は、10回となる。	
成績評価方法	
複数の教員でカリキュラム運営を行うため、それぞれでの小テスト、課題レポート、実習態度などを踏まえて総合的に評価する。時間数に応じた配点とし、判定する。	
教科書・参考書	
特に無し。	
予習復習のアドバイス	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2025年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	予定表参照		
科目名	情報処理	講義曜日	月曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	丸山千恵	実務経験			
講義目標	一般目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ パソコンを利用し、日常業務の問題解決の手法を修得する。 ・ パソコンの基本的な操作を通じ情報リテラシーの能力を高める。 				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報化社会の中で、パソコンを日常業務の道具として駆使できること。 ・ 最小限のアプリケーションソフトを使いこなし、情報処理能力を高めること。 ・ 文書処理などの一般的な操作が理解できること。 				
回数	講義内容				
1	・ 授業オリエンテーション / ・ タッチタイピング				
2	・ マイクロソフト Wordの使い方 / ・ タッチタイピング				
3	・ タッチタイピング / ・ Word機能紹介				
4	・ 社外文書作成① / ・ Word機能紹介				
5	・ 社外文書作成② / ・ Word機能紹介				
6	・ 社外文書作成③ / ・ Word機能紹介				
7	・ マイクロソフト Excelの使い方 / ・ Excel機能紹介				
8	・ Excel機能紹介・表作成 / ・ 課題提出				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					

18	
19	
20	
<p>講義方法 ※この講義では、604教室を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にパソコンの操作は学生により差があると思われるが、学校教育の一科目であるため、基礎から指導する。その後は各人の進捗に合わせて適切な実習を行う。 ・学生とコミュニケーションを取りながら楽しくマシン実習行う。 	
<p>講義で使用する機器・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義説明はプロジェクター使用。 	
<p>履修上の注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業には休まず毎日出席すること。欠席は提出課題作成などの遅れとなる。 ・理解できない場合は、そのままにせず積極的に質問すること。理解して次に繋がります。 	
<p>成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に提出課題で成績評価とする。 ・成績評価には平常点として授業態度や出欠状況も加算し、総合的に評価する。 	
<p>教科書・参考書</p> <p>【教科書】30時間でマスター Words & Excel 2019</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別途プリント配布あり。 	
<p>予習復習のアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に予習復習の必要はなし。 ・課題作成の遅れは、授業の空きコマや放課後に各自マシンを使用し実習できる。 	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	前期	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	4時間目		
科目名	救急法（麻酔・心電図を含む）	講義曜日	金曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	佐々木詩織、前川翠	実務経験			
講義目標	一般目標				
	全身麻酔法、局所麻酔法および精神鎮静法に必要な基礎知識を習得する。 歯科治療中の全身管理と偶発症発生時の対応について学ぶ。 救急処置に必要な知識と技術を習得する。				
	到達目標				
	歯科治療における歯科麻酔の役割を説明できる。 全身状態・バイタルサイン・各種麻酔法を説明できる。 全身的偶発症への対応と救命処置について説明・実践できる。				
回数	講義内容				
1	歯科麻酔科学総論				
2	バイタルサイン				
3	局所麻酔法				
4	全身麻酔法				
5	精神鎮静法				
6	歯科治療時の全身的偶発症				
7	救急蘇生法（講義）				
8	救急蘇生法（実習）				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

17	
18	
19	
20	
講義方法	
対面講義方式で行います。	
講義で使用する機器・教材	
パワーポイントを使用して行います。授業資料としてプリントを一部お配りします。	
履修上の注意事項	
救急蘇生実習では胸骨圧迫を行います。 動きやすく、屈んだ際に問題ない服装で参加してください。	
成績評価方法	
学科試験の点数により評価します。	
教科書・参考書	
【教科書】 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版	
予習復習のアドバイス	
授業プリントと教科書を用いて学習を進めましょう。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	1, 2時間目		
科目名	ビジネスマナー	講義曜日	水曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	久納令子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	社会人として接遇マナーの重要性、表現を学ぶ。歯科衛生士としての受付対応・電話対応の基本的対応をロールプレイングを通して、習得する。				
	到達目標				
	社会人としての一般常識を学び、患者対応の基本を実践できる。				
回数	講義内容				
1	自己紹介・学生と社会人の違い・組織で働くということ				
2	チームで仕事をする事・患者が求めるもの				
3	第一印象の重要性（身だしなみ・姿勢・表情・挨拶など）				
4	第一印象の重要性（物の受け渡し・ご案内・入退室の仕方など）言葉遣いの基本				
5	患者対応の基本				
6	患者対応の基本　ロールプレイング				
7	電話対応の基本　電話対応の基本ロールプレイング				
8	まとめ				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					

18	
19	
20	
講義方法	
<p>座学においてテキストに基づき学び、表情や物の受け渡し等は実践にて学ぶ。 基本対応や電話対応もロールプレイングで身につくように指導。</p>	
講義で使用する機器・教材	
<p>電話機2台（10/22）</p>	
履修上の注意事項	
<p>遅刻がないよう出席。授業を受ける姿勢も就業におけるビジネスマナーに通ずる心構え</p>	
成績評価方法	
<p>講義時間中、10/15基本対応、10/22電話対応の際にロールプレイング実施時の評価を行う。</p>	
教科書・参考書	
<p>テキスト（株式会社 ニチイ学館作）</p>	
予習復習のアドバイス	
<p>「ビジネスマナー」以外の授業でも、初めと終わりの挨拶を励行し、学校生活において学んだマナーを実行することで身に付けたい。</p>	

講義要項（シラバス）シート

年度	2025年度	時期	後期	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	3, 4時間目		
科目名	看護概論	講義曜日	月曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	工藤洋子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	対象者のライフステージにおける健康上の問題・課題を理解し、対象者の健康の維持・向上に必要な知識と技術を習得する。また地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割を理解する。				
	到達目標				
	①対象を理解し、必要な知識・技術について習得できる。 ②社会資源の活用と多職種との連携・協働、多様な場における歯科衛生士の役割について説明することができる。				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション・保健・医療・福祉チームとの連携と役割				
2	対象の理解と支援				
3	制度と社会資源				
4	地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割				
5	看護技術（バイタルサイン ほか）				
6	看護技術（吸引・栄養と食事・与薬 ほか）				
7	看護技術演習①				
8	看護技術演習②				
9	まとめ（定期試験）				
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					

18	
19	
20	
講義方法	
<p>授業では、テキストと配布印刷物資料、視聴覚教材を活用する。 技術演習を実施し、知識の確認と技術を習得する。</p>	
講義で使用する機器・教材	
<p>必要時授業内でお知らせします。</p>	
履修上の注意事項	
<p>遅刻・欠席・早退の扱いは、学校の規程に従って対処します。</p>	
成績評価方法	
<p>①試験（70%）…持込不可による問題を出題する。 ②課題レポート（20%） ③授業への参加態度（10%）</p>	
教科書・参考書	
<p>【教科書】 歯科衛生士のための看護学大意 第4版</p>	
予習復習のアドバイス	
<p>予習は、講義の最後に次週の告知をするので、次週まで教科書の該当部分を読み、疑問点を調べてくること。 復習は、講義の内容について、教科書、資料をまとめ、国家試験問題を解いてみること。</p>	